

濟生

SAISEI

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

No.1149

「NEWSな濟生人」

地域医療再編〈前編〉

「県央地域の患者は
県央で診る」



3

March 2025

社会福祉法人 恩賜財団 濟生会

<https://www.saiseikai.or.jp>

濟生会の 不易流行論

理事長 炭谷 茂
Sbigeru Sumitani



濟生会が輝くとき

9年前98歳で母が亡くなった。戦争を挟んで苦勞連続の人生だった。10代後半に母の父が、商談で函館に滞在中に電車のデッキから振り落とされ、不慮の死を遂げた。そのころまでは母の実家は、北海道産の物資を商い、相当繁盛したらしい。母の人生は、それを機に一転

した。結婚後5人の子どもを育て上げ、父が亡くなってからは、90歳近くまで一人暮らしをしてきた。大変気丈で、時々訪れる私に「体に気をつけてね」と氣遣った。しかし、ある日突然心臓に異常を感じた。市役所から配布された緊急ボタンを押した。市役

所からの連絡で元学校長の民生委員が駆け付け、近所のかかりつけの病院への手配、家の戸締り等をしてくれた。病院での治療後は、病院関連の介護施設で暮らした。そこでは母の学校時代の同級生に出会い、快適な日々を送ることができた。その後、心臓の機能が悪化し、医療が必要になり、富山・済生会高岡病院に入院した。その間、左膝から下部を血流不全のため失うという辛いことがあったものの、穏やかな日々を過ごし、息を引き取った。

☆ ☆
日本は高齢化率が30%近くの人類が未体験の超高齢社会に入った。

日本は高齢化への準備が大変遅れてしまった。英国は私が滞在していた1975年ごろに高齢者対策の本格的な整備に着手していた。

石破茂総理は、今年1月24日の施政方針演説で「入院だけ

なく、外来・在宅医療や介護との連携も含む新しい地域医療構想を策定し、地域での協議を促進します」と述べたが、遅きに失した感がある。

地域での医療と福祉の連携は、英国では1948年のNHS（国民保健サービス）発足時から取り組まれた。病院、家庭医、訪問看護師、ホームヘルパーなどは違った組織に属するが、連携の強化に一貫して努力された。その間資源配分の偏り、谷間に落ちる人への対応など問題点が発見されるたびに、改善する英国の経験主義手法である。80年の経験を積み重ねて今日がある。済生会は、医療と福祉の両部門を有する世界最大級の民間公益組織である。

医療と福祉の連携を実行するには最もふさわしい組織である。既に住民の方々が真に安心できる済生会独自の「地域包括ケア」の実施やこれに必要な「済生会地域包括ケア連携士」の養成を進めてきた。超高齢社会を迎え、住民から「自分の町に済生会があつて本当に良かった」と言われ続けた

人事給与システムが変われば、どうなる。



日立システムズはニッセイコム社製人事給与システムをご提案致します。

特長1	給与計算時のexcel管理を削減!	特長2	人事情報からの自動計算!	特長3	様々な支給形態に対応!
GrowOne 人事SX GrowOne 給与SX	各種手当や退職金の計算をシステム内で完結することで、給与計算にかかる時間数や計算ミスリスクを削減できます。		家族情報から扶養手当や年末調整を自動計算し、介護保険等の年齢による控除や手当も自動化できます。		正職員、非常勤職員や日給・時給など様々な雇用契約に応じた支給形態に対応し、職員情報から自動判定できます。

株式会社 日立システムズ

〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-1 ゲートシティ大崎ウエストタワー
福祉の森担当：山本
フリーダイヤル：0120-055-294

Human * IT

topics★コンシェル



「済生」のエンジン（原動力）は後半にあり!!
質・量ともに充実の、済生記者たちが投稿する
記事は宝の山、原石の煌めきを放っています。
済生コンシェルジュがおすすめする記事を
ご紹介します。



P47

〈北海道〉小樽老健はまなす
に連携先の歯科医院スタッ
フが来所。鬼に扮して利用
者の診療をしました。



P28

〈熊本〉みすみ病院の看護師
・大村祐子さんが交通事故
現場で救命処置を実施、後
日、地元警察と消防職員が
お礼を伝えに来院しました。

〔おすすめPOINT〕
日ごろの訓練に加え、即座
に応急救護をする行動力。
「助ける」という勇気が大
切だと改めて感じました。

The latter half of this magazine is
covered with a rich forest of
treasurable articles.
What will you discover there?

きたポ
きたかみ健康福祉ポイント
P.45

〈岩手〉北上済生会病院が考
案した住民向け健康づくりの
活動。このほど北上市の事業
として認められました。

SAISEI
March 3

表紙のことば 風に歌う、ベル型の小さな女神たち

表紙イラスト 久保田真由美 *Mayumi Kubota*

散歩中、見かけると嬉しくなる花があります。小さ
なベル型の花が鈴なりに集まって咲く花、アセビ。
学名はピエリス。ギリシャ神話の音楽と芸術と詩の
9人姉妹の女神の名前です。可憐な花が集まり揺れな

がら女神たちはどんな歌声を響かせているのでしょ
う。この季節、アセビの木にはたくさんの舞台がか
かっています。時には蝶も参加します。見つけたら
ちょっと足を止めて鑑賞してみませんか。



済生

SAISEI

CONTENTS
MARCH, 2025

NEWSな済生人

地域医療再編〈前編〉
「県央地域の患者は県央で診る」
新潟県央基幹病院 病院長 06

遠藤直人さん

済生会交差点

〈固定チームナーシング〉「より良い看護がした
い!」看護師と看護助手が積み重ねた四半世
紀の財産／〈特養が取り組む住まいの支援〉
済生会らしさ・高寿園らしさを生かし、住
宅確保要配慮者をサポート 10

連載 機関誌「済生」が 創刊100年!

巻頭コラム 済生会の不易流行論 03
済生会が輝くとき 理事長 炭谷 茂

topicS★コンシェル 05
表紙のことば 久保田真由美

ソーシャルインクルージョン 16

この人 iScream iScream
YUNA & HINATA 22

口福につぼん 吉井省一 24

だれでもかんたん てづくりおもちゃ
いまいみさ 26

TOPICS 28
大雑報 74

題字協力：石飛博光
アートディレクション：OVO INTERNATIONAL

「県央地域の患者は県央で診る」

地域医療再編で2024年3月に開院した新潟県央基幹病院（400床・31診療科）。「県央地域の患者は県央で診る」を理念に、新しい地域医療の基盤づくりが進んでいます。病院長の遠藤直人さんにこの1年の活動と今後の展望を伺いました。

（三重・明和病院 済生記者 藤岡拓人）

藤岡 新潟県央基幹病院が開院した経緯について教えてください。

遠藤 三条市、燕市、加茂市、田上町、弥彦村からなる新潟県・県央地域の人口は22万人で17%が75歳以上です。2045年には人口16万人、後期高齢者は24%を占めると見込まれています。長年この地域の医療は救急をはじめ、多くの問

題を抱えていました。

藤岡 具体的に言いますと？

遠藤 例えば、この地域では高度の救急、専門的な治療が提供できず、年間8000件の救急患者の25%は近隣の新潟市や長岡市に搬送されていました。また、高齢患者の増加にも対応できなくなってきました。さらに、若い医師は年々減少、病院勤務医の年齢も高くなってきました。

藤岡 これらの課題を解決するために医療再編に取り組みすることになったのですか？

遠藤 はい。再編の大きな柱は急性期を担当する基幹病院をつくることでした。もちろん、「基幹病院Ⅱ医療再編の救世主」ではありません。基幹病院に連動して急性期

※写真撮影時のみマスクを外しています

新潟県央基幹病院 病院長

遠藤直人さん

新潟県央基幹病院の屋上ヘリポートにて。左はインタビュアーの藤岡さん。トビックスP40もご覧ください。

NEWSな済生人 Interview

新病院誕生から1年
近隣病院との連携で医療体制確立へ

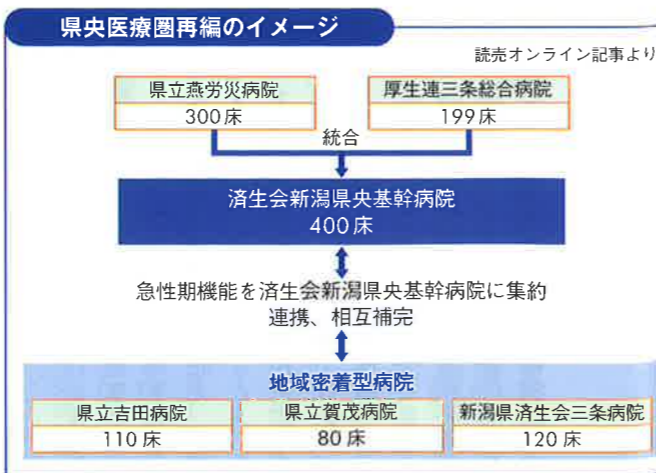


病院の後方はJR燕三条駅。右が東京方面

を脱した患者を受け入れ、回復期以降の療養ができる地域密着型の病院が必要でした。藤岡 再編後の医療体制はどのような仕組みになっていますか？

遠藤 県立燕労災病院（燕市）と厚生連三条総合病院（三条市）を統合してできた当院に県立吉田病院、同加茂病院、済生会三条病院の急性期医療の機能を集約しました。そして吉田、加茂、三条の3病院は一般外来診療、慢性疾患の重症化予防などを担当する地域密着型の病院に機能転換しました。藤岡 まさに地域医療の再編ですね。

遠藤 ただし県央基幹病院で全ての救急患者を引き受けるのではなく、日中は県立吉田、同加茂、済生会三条の地域密着型病院3施設と、三条市・加茂市・見附市南蒲原郡・燕市の4医師会が管理運営する県央医師会応急診療所が分担します。藤岡 地域の医療機関との連携が鍵だということですね。



遠藤 そうです。また当院では対応できない心臓血管外科や呼吸器外科などの救急、重度熱傷などの疾患は、従来のように新潟市、長岡市の医療機関の協力を得てそちらに搬送します。さらに、地域の民間病院、クリニック、県央医師会応急診療所などとも連携し、「地域全体が一つの病院」のように機能することを目指しています。こうした体制の中、当院では年間6000台程度を受け入れることを目指しました。

帰属意識が生まれれば
組織の土台ができる

藤岡 県央基幹病院の職員は母体の2病院の職員が中心ですか？

遠藤 職員数は783人（24年4月現在）。内訳は燕労災病院357人（46%）、厚生連三条総合病院164人（21%）、済生会

「地域全体が一つの病院」のように機能することを目指す



放射線治療装置のリニアック。天井の天井パネルや患者さんの不安を和らげるよう取り入れられた



緑色の外壁は病院に着いたとき患者さん・家族が安心できるように工夫がされている



人工透析はチーム医療。治療だけでなく生活習慣や福祉制度の活用など多職種で患者さんを支える



1階から2階へと続く救急用スロープ。浸水時にも医療を継続できるように主な診療機能は2階以上に配置している



2024年9月、大規模災害に備えて病院スタッフと航空隊員による防災ヘリコプターの離着陸および傷病者引継ぎ訓練が行なわれた



2024年7月、燕市の小学生が「広報つばめ子ども記者」として、遠藤直人病院長（左）と岩淵洋一統括副院長（右）にインタビュー。外科医への取材やヘリポート見学の様子は燕市広報誌に掲載された

れば若い医師の確保も可能になりますね。遠藤 これまでこの地域では唯一、燕労災病院が協力機関として救急科、総合診療科など単科で短期間研修できる制度を設けていました。その実績から当院は基幹型臨床研修病院として承認されました。約30人の研修医から応募があり、マッチングの結果、臨床研修医8人、自治医大生1人が24年4月から第1期生として研修を開始しています。

藤岡 どのような方法で募集したのですか。遠藤 SNSなどで発信したり学会に出か

【取材を終えて】「県央地域の患者さんは県央で診る」と何度も口にされていた遠藤病院長。職員の出身はさまざまでも、人材を育成し医療の質を高めるというリーダーシップを感じました。済生会が果たすべき役割を再認識した取材でした。（藤岡拓人）

藤岡 デジタルネイティブの世代に向けた広報の充実・強化は重要です。遠藤 「新しい病院を一緒に盛り上げていく」と若い医療従事者に向け呼びかけたところ、全国から有志が集まってきました。特に、新潟県は15年に魚沼基幹病院（454床）を開設しましたが、看護師が十分に確保できなかった経験から今回は看護師確保に注力。YouTubeで開催した座談会には当院の看護部長が参加しました。藤岡 今後の課題、展望は。遠藤 前述したように、当初の見込みを超える救急患者を受け入れていますが、軽症のケースも一定数あり、今後の検討課題です。医療再編に

よる新病院の開院はゴールではなくスタートです。県央地域全体を一つの病院のようにする。患者が当院から他の病院に転院したときはあたたかも病棟が変わったかのような気持ち、安心感を持ってもらえることが大切です。藤岡 地域の皆さんからの期待も大きいと思います。遠藤 当院が目指す医療を実現するために救急医8人、総合診療医5人を含む医師数が68人という体制は十分とはいえませんが、今後、教育、研究活動、院内学会などを通じて各職種のスキルアップを図り、医療の質を高めながら、人材を育成していきます。そして、働きがいがある病院にしていきたいと考えています。

が採用した職員（新卒含む）262人（33%）です。開院前から、寄合所帯でうまくいくのかと心配する声はありましたが、「新しい病院で地域の医療を再建する」という気概を持った人たちが集まりました。藤岡 経営母体が異なる二つの病院が済生会の指定管理で一つになる。職員にはどのように働きかけたのですか。遠藤 まずは、二つの病院の職員がそれぞれ顔の見える関係になることが重要でした。医師は学会や研究会などで顔を合わせる機会も多くありますが、他のスタッフは交流する機会を多くありません。そこで、「お互いを知ろう」をキャッチフレーズに積極的な人事交流をしました。藤岡 どのようなことをしたのですか。遠藤 例えば、開院の2年ぐらい前から2カ月に1回、合同講演会・セミナーなどを二つの病院で交互に開催し、相手の病院から講師を招きました。また、看護師がそれぞれの病院で研修する機会も設けました。研修先の診療科として、治療法が確立し、手技も標準化されている分野が適当だろうということでも「透視部門」が選ばれました。藤岡 その結果は？遠藤 蓋を開けてみると、それぞれの病院で使っている機器だけでなく、操作手順も違つことが分かりました。一つずつすり合わせしながら医療・看護技術の統合を図りました。開院までの限られた時間で準備を進めました。藤岡 職員との意思疎通はどのように図つ

ていますか。遠藤 開院してから毎月1日に病院長、副院長が職員向けA4版1枚にまとめたメッセージを伝えていきます。折々の会議でも話をします。全職員に済生会の理念が浸透し、帰属意識が生まれれば組織の土台ができていく。試行錯誤を繰り返す中で、一人ひとりの職員と認識を共有できればと思っています。若い医療従事者の確保へSNSなどで呼びかけ藤岡 患者数はどのように推移していますか。遠藤 開院から半年が経過した24年8月の診療実績は、1日平均入院患者数305人、同外来患者数571人（透視含む）、手術件数1584件です。藤岡 救急患者数は当初の見込みどおりですか。遠藤 当院の開院を待ち構えていたように、連日、小児から高齢者まで救急患者が運び込まれてきます。救急患者数は月を追うごとに増え、8月は1000人を超え、開院半年で4879人（救急車3246人、ウォークイン1633人）と、当初想定した数を超える勢いです。その影響で県央地域から新潟市、長岡市への救急搬送率は23年の同時期と比較して6・3%減少しました。藤岡 24年3月の開院と同時に基幹型臨床研修病院に指定されました。医師の高齢化が課題とのことですが、臨床研修病院にな



統合前の両旧病院看板と病院模型が展示された1階休憩スペース



5階西病棟（療養病棟）の看護師・看護助手の皆さん



濟生会 交差点

SAISEIKAI JUNCTION

濟生会にはたくさんの道があります。
道はどこかの交差点で変わり、離れていきます。
そして経路は異なっても目的地はみんな同じ。
「笑顔」です。

看護助手のスキルに応じた業務分担があります。看護助手は物品の補充や患者さんの療養環境の整備、見守りのほか、必要に応じて看護師とともに患者に

— 看護助手の業務は？

看護助手のスキルに応じた業務分担があります。看護助手は物品の補充や患者さんの療養環境の整備、見守りのほか、必要に応じて看護師とともに患者に

のような体制？

看護体制は①外来②急性期一般病棟（3階東）③地域包括ケア病棟（3階西）④療養病棟（5階東）⑤療養病棟（5階西）の5部署から成っています。看護師126人、看護助手37人の陣容です。各病棟は看護師チームが二つと看護助手チームが一つで編成され年間活動を行なっています。看護師チームでは、チームリーダー、サブリーダー、メンバー看護師が存在し、日々の業務は、日々リーダーのもと、日々受け持ち看護師が担当患者を4〜5人担当しています。さらに、看護助手が看護チームの一員として協働する体制にしています。



直接的なケアや介助など、より安心・快適な生活を送れるように支えることが重要な役割です。地域包括ケア病棟での院内ケアでは看護助手も参加しています。

看護助手にもやりがいをもってもらえるように業務を分担しています。その一つとして「感染リスク助手」の役割があります。各病棟スタッフの手指衛生の現状について、手洗いの清潔保持の状況、手洗いの回数、アルコール消毒液の消費量などをデータにして、感染防御の遵守状況を評価し、課題や解決策などを院内委員会などで提案します。こうした活動は院内感染の防止に役立っています。

直接的なケアや介助など、より安心・快適な生活を送れるように支えることが重要な役割です。地域包括ケア病棟での院内ケアでは看護助手も参加しています。



江津市立青陵中学校の生徒が地域医療実習で来院。後日届いたメッセージには「看護師を目指したい気持ちが高まった」という意見もありうれしかったです」と話した看護部長の大演理砂さん（左）と山本恵美子さん



急性期、地域包括ケア、慢性期と幅広い医療を提供する

江津総合病院には看護助手も参画して院内感染を防止する「感染リンクスタッフ会」が組織されている。看護助手の宝本真智子さんは感染リンク助手の一員。洗面スペースなどの水まわりは特に感染対策を徹底している



看護師が看護助手に褥瘡の早期発見のポイントを伝え、看護助手が報告、相談しやすい体制を整備することで病棟全体の褥瘡発生率が下がった。写真は療養病棟（5階西）の看護師と看護助手（薄紫色のユニホーム）



「より良い看護がしたい！」

看護師と看護助手が 積み重ねた

四半世紀の財産

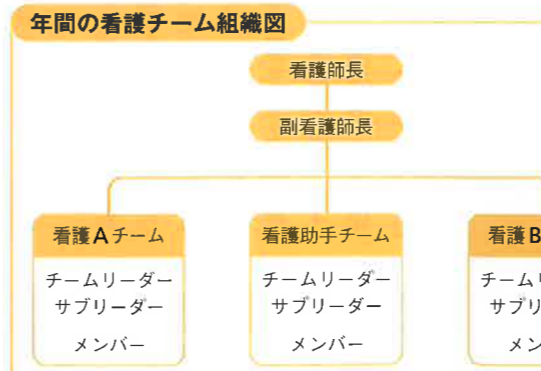


— 固定チームナーシングを導入した理由は？

（本部広報課 河内淳史 / メディカル・リープ 宇佐美拓憲）

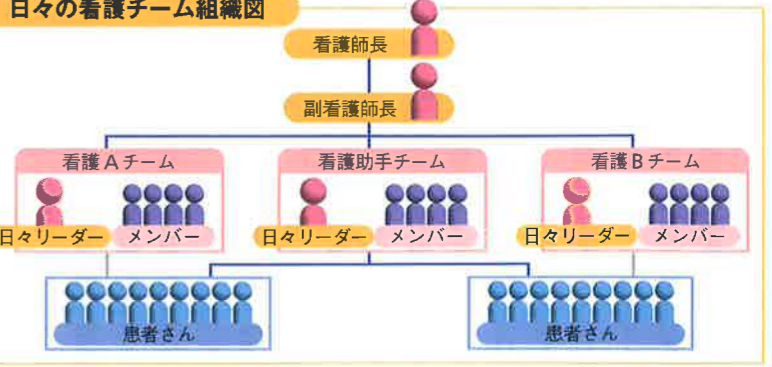
江津総合病院は25年前から看護師がチームを組んでリーダーとメンバーの役割を分担し、担当患者を一定期間固定してケアする「固定チームナーシング」を採用しています。そこに看護助手も加わる独自のスタイルで四半世紀にわたって研鑽を重ね実績を積み重ねました。どのような取り組みなのか看護部長の大崎恵子さんに聞きました。

固定チームナーシング
〈島根〉
江津総合病院



当院はもとも機能別看護方式を採用していました。当時の看護師は日々の業務に追われていて、仕事のやりがいを感じづらい環境でした。そこでより良い看護を実現するために25年前から「固定チームナーシング」を導入しました。病棟の患者さん全てをスタッフ全員で看るのではなく、チームに分かれて、担当

患者を決めて、受け持ち看護師が中心に状態の観察や点滴など日々のケアや処置、患者が抱えるさまざまな課題解決に努めています。担当を決めることで、看護師は患者さんとコミュニケーションを取りやすく、患者さんにとっても受け持ちの看護師がいることで、安心安全な入院生活を送っていただきたいと思つたからです。



特養が取り組む 住まいの支援

〈大阪〉
吹田特養高寿園



「患者さん、ご家族さんに季節を感じていただけるように、看護助手を中心に時には患者さんも一緒に加わって、季節の飾りつけを実施しています。また、患者さんに気持ちよく入院生活を送っていただけるように、環境調整や清潔ケアなど個性のある生活支援を看護師と看護助手と協働し行なっています」と話す藤田さん

済生会らしさ・高寿園らしさを生かし 住宅確保要配慮者をサポート

吹田特養高寿園は「一人ひとりを大切に、やすらぎのある暮らしをささえる」をモットーに、30年以上にわたり特養やショートステイ、居宅介護支援、訪問介護、障害福祉サービスなどの福祉事業を行なってきました。

2023年には全国の済生会施設の中でもいち早く居住支援法人の指定を受託。吹田市居住支援協議会に参加し、多業種連

携で住まいの支援に取り組んでいます。

居住支援とは、貧困、高齢、障害、被災などさまざまな理由で住まい探しに困っている人（住宅確保要配慮者）をサポートする取り組みのこと。池田恵津子園長は「その人らしい生活」を支え、見守り、共に育み合うことをコンセプトに地域課題の解決や地域連携に関わる活動に進んで取り組んできた当園

が、住まいでお困りの方をサポートしようと考えることは自然な流れでした」と語ります。

統括マネージャーの小川俊彦さんは「池田園長から居住支援事業のお話があったときに『絶対にやりたいです』と真っ先にお伝えしたことを今でも鮮明に覚えています」と当時のことを振り返ります。



池田恵津子園長

統括マネージャー・小川俊彦さん

す。実はとても意義のある活動を私たちは行なっています。

「取材を終えて」……
「より良い看護がしたい」という先輩看護スタッフの思いが今の職員にも受け継がれ、現在の固定チームナーシング継続につながっています」と語った大崎さん。25年もの間積み重ねて来た江津総合病院の固定チームナーシングはまさに済生会の財産。済生会が地域に誇れる活動だと感じました。



第21回看護助手小集団活動成果発表会後の集合写真（看護助手の皆さん）



歴代の成果発表会の抄録集

——江津総合病院の固定チームナーシングの特徴は？

看護師チーム、助手チームが部署の組織図上は横並びに位置しています。それぞれの立場での役割やケアをお互いに認め合い協働していることが特徴です。それは長年積み上げてきた信頼関係があるからで、今ではかけがえないパートナーです。実際、看護助手の日常生活を支える視点や観察、看護師の病状観察の視点の両者をあわせ看護の質向上に繋がっています。

——長年続けられる秘訣は？

固定チームナーシング研修会（25年間継続）と看護助手小集団活動成果発表会（20年間継続）が互いを承認する機会となりモチベーションにつながったことが秘訣かもしれません。1年の取り組み成果は看護部全体で共有し、新年度に向け、地域課題を踏まえた各部署の患者の抱える課題を整理し、次年度の看護目標を設定します。各病棟で具

「看護師と看護助手はパートナー。お互いの成長を支えることで自信と誇りが身につく」と話す大崎看護部長



ナースステーション前の看護部長の藤田幸代さん（右）と看護助手の宝本真智子さん。二人はチーム活動について、よく相談や対話を行なっています

体的な年間計画を立て、進捗管理を行ないながら1年間の活動成果をまとめ成果発表会を行なっています。「看護助手にもやりがいを持って仕事をしてほしい」という歴代の看護管理者の願いから、小集団活動を導入しています。初めは看護助手向けに医療用語などの勉強会やチームで働くことの意義など講義やグループワークの中から学んでいかれたと聞いています。そして目標を持ち、成果を積み重ねることで仕事に対する責任感と誇りが生まれたと考えます。看護チームの活動が看護助手の活動を支え、お互いの信頼関係

を深めてきたことで継続してこられたと思います。

——固定チームナーシングはこの先も継続しますか？

はい、継続していきたいと思っています。患者を支える看護の課題は尽きず、一つひとつに取り組んでいたら25年が経過しました。固定チームナーシングというツールを活用し、先人から積み重ねてきた成果は財産であり、次の世代に伝えていく使命があります。固定チームナーシングは、患者のより良い変化を求めてチームで支援する仕組みがあります。また、役割を通じて看護専門職としての成長も促しま



新型コロナで中断していた 授産製品の販売を再開！

〈大阪〉千里病院



障害者施設で作った授産製品を販売する店「はびすま」の出張販売が、1月27日に病院棟地下1階で行なわれました。コロナ禍で中断して以来、約5年ぶりの再開です。

イオン筑紫野で健康福祉フェア 体験型イベントに232人

1月26日に「第8回健康福祉フェア」を開催し、232人が来

場しました。今回は認知症をテーマに、エーザイ株式会社と住友ファーマ株式会社の協力のもと、ブレパサイズ（頭と体を動かすエクササイズ）やブレインワークアウト（脳トレゲーム）、認知症VR体験を実施。さらに、筑紫地区5市の認知症に関する取り組みの紹介とともに、当院からは脳神経内科医師と作業療法士による認知症に関する講演会や、子ども向けの医師のお仕事体験などを行ないました。



「作ったものが売れるとうれしい」という声も聞かれました。販売は当面の間、不定期（現在調整中）で行なわれる予定です。来院した際はぜひお立ち寄りください。



き、心のこもった製品を手にとってみてください。

（済生記者 二階堂潤江）



参加者からは「認知症に対する理解が深まった」「子どもが楽しめた」との感想をいただきました。来年度も3回の開催を予定しており、地域住民の皆さんに楽しく健康について考えていただけるようなイベントを企画しています。

（二日市病院）

経営戦略課 都甲七桜

不要パソコンリサイクル 解体の収益は障害者施設へ

〈新潟〉三条病院



1月7日、日本基板ネットワークの職員の方が不要になったパソコンの回収のため来院しました。機器の入れ替えに合わせて、この取り組みは、昨年に引き続き今回で3回目です。会議室に集められたハードディスクは、ドリルやドリパーで破壊処理を行なった後に回収されます。今回はパソコンやハードディスクなど209台を回収してもらいました。

大分県地域生活定着支援センター 保護司会研修会に50人 センター業務について講演

1月17日、豊後大野保護区（豊後大野市）保護司会研修会が行なわれ、御手洗和也センター長と筆者がセンター業務について事例を交えて講演しました。

当日は当センターが支援する対象者の担当保護司や、更生保護女性会の会員ら約50人が参加。研修会後は「更生保護における福祉の必要性を感じた」などの感想をいただきました。研修会後の懇談会には、川野文敏・豊後大野市長が出席。市長は現在、矯正施設所在自治体協議九州地域部会の議長を務めており、センターの存在について関心を寄せていただきました。大分市には、地域住民が誘致して設立された大分少年院が



あります。犯罪や非行をした人々を支える温かい土壌があり、最近では居住支援法人による生活困窮者支援が進んでいます。（相談員 黒木晃平）

職員の方は「大量の回収依頼は大変ありがたいです」と話していました。引き取られた機器は就労継続支援事業B型のんびりAXISでマイスター（利用

者さん）が解体し、再利用・再資源化されること。なお、解体事業で得られた収益は全額障害者施設の利用者さんの工賃になるそうです。（済生記者 樋口拓也）

更生保護施設入所者が地域清掃 近隣住民から差し入れも

〈大分〉日田病院



1月26日は早朝から施設周辺の歩道のゴミ拾いや、道路脇の花壇の草むしりを中心を実施。この活動を開始した当初は「面倒や、少

しも寝たい」と愚痴をこぼしていた寮生も、今では一丸となって、集中して活動を行なっています。

昨年11月15日には足立信也市長から表彰を受け、活動を評価されたことを職員・入寮者とともに喜びました。

最近では近隣住民から差し入れをいただくことも。寮生は「過去ではなく現在の自分を地域の方に認められ、受け入れられている」と素直に感じているようです。

（更生保護施設あけぼの寮 重光宏俊）

1月16日にイオンモール明和で開催されたモールウォーキングに参加しました。このイベントは、健康的なライフスタイルを実現するための取り組みの一端として、イオンモール館内に設定されたコースで行なわれま

理学療法士の健康講座も イオン明和でウォーキング

〈三重〉明和病院

した。総勢20人が参加し、にぎやかなウォーキングとなりました。

明和グループからは理学療法士が参加し、ウォーキング後に健康講座を開催。参加者の皆さんに健康に対する意識をより高

めていただく機会となりました。

モールのウォーキングは今後も毎月第3木曜日に開催される予定です。

明和グループも引き続き参



加予定です。

（済生記者 藤岡拓人）



「1piece for 2PEACE」お菓子販売会 おいしさとともに社会貢献活動

〈東京〉中央病院

港区立障害保健福祉センターみなどワークアクティと、港区区内にある株式会社シクミオによるコラボレーション企画「1piece for 2PEACE」の一環で、1月31日に当院職員食堂で職員向けにお菓子販売会を開催しました。

これは、お菓子を一つ買うことで売上金の一部を障害者福祉施設の利用者の皆さんの工賃と、子ども食堂へのお菓子の寄付につなげることができるという取り組み。当院の社会貢献推進委員会との共催で、今回初めて販売会が実現しました。



当日は473個を販売し、売り上げは当初の目標額を大幅

超過した。販売されたお菓子の一部は、子ども食堂へ寄付された。今回は「からだのスキンケア」

2回目のOpenMUJIイベント 認定・専門看護師が解説

〈大阪〉中津病院

と題し、医学的な観点から大人のからだのスキンケアを井上瞳・皮膚排泄ケア認定看護師、子どもアレルギーがある方から



に超える18万1612円。筆者も社会貢献推進委員会の一人として携わっており、大変うれしい結果となりました。

職員からも好評だったので、今後は院内で一般向けに開催できるように本委員会企画する予定です。

（広報室 佐藤弘恵）

だスキンケアを林奈津子・小児看護専門看護師が解説しました。その後二つのブースに分かれ、バスソープの泡立てや、肌質計での水分・油分量測定後に保湿クリームの塗り方を体験してもらいました。参加者から「分かりやすく勉強になった」「帰ったら実践しようと思う」とのうれしい声をいただきました。

無印良品イベントは今後も定期的に開催し、皆さんに役立つ情報を発信していきます。

（済生記者 鈴木亜希乃）





機関誌「濟生」が 創刊100年!

1924 (大正13)年6月創刊の「濟生」が発行100年を迎えました。「濟生」のあゆみを紹介します。
日本は今年、戦後80年を迎え、この間、紛争のない国であり続けました。
しかし、かつて済生会が武力衝突に巻き込まれる寸前だったことがありました。
それが近代日本最大のクーデター「二・二六事件」。
機関誌「濟生」1936 (昭和11)年3月号の「帝都不祥事変と済生会」から当時の状況をお伝えします。
(株)白橋 西林美美・本部広報課 河内淳史

二・二六事件と済生会【前編】



内務省の仮事務所となった済生会本部。大正4年築の建物は関東大震災で倒壊、その後、昭和7年7月に鉄筋コンクリート造りに生まれ変わった (済生会誌 (創立二十五周年誌)より)

当初は内務省が事務を担当し、治療事業は都道府県が担うというものでした。内務省とは今でいう総務省・警察庁・国土交通省・厚生労働省などの役割を担当しました。



東京千代田区大手町1丁目にある内務省跡の案内看板 (左)。右は同港区三田の済生会本部。大正4年12月に久留米藩の上屋敷跡に建築されて以来、現在までここに立地している

「二・二六事件」と「内務省」
はじめに、二・二六事件とは何か、済生会と内務省の関係も含めて説明します。
「二・二六事件」
1936 (昭和11)年2月26日、陸軍の青年将校ら1500人が天皇の側近や大臣らを殺害

因の一つでした。
この反乱は失敗に終わりますが、1932 (昭和7)年の五・一五事件と並んで、日本の軍国化を加速させた事件と言われています。
内務省と済生会
現在の済生会は社会福祉事業を行なう民間団体ですが、設立

う国の中枢組織でしたが戦後、GHQの指令により解体されま

した。
済生会本部が
内務省の仮事務所に
第一報 (2月26日)

3日前の大雪による積雪が残る東京、午前9時に内務省衛生局長の自宅から済生会本部に電話がかかってきました。内容は陸軍青年将校らが政府要人などを襲撃、霞ヶ



避難所となった日本劇場 (かつて東京・有楽町にあった) に駆け込む人たち (写真提供: (株)アフロ)

属乳児院)に一班を編成しました。理事長と本部職員は徹夜で対応。緊迫する情勢について情報収集するとともに、東京市内の済生会診療所の警備に当たりました。



2月26日、警備にあたる鎮圧部隊 (写真提供: 共同通信社)

この日の早朝、内務大臣官邸も襲われましたが大臣は不在で難を逃れました。しかし霞ヶ関一帯が戦場となる恐れがあることから、内務省衛生局の機能を済生会本部の建物に移転するというのです。内務省職員數十人は済生会会長室などに詰め、27日午前1時頃まで応急事務に当たりました。

帝都不祥事変と本會
二月二十七日午後三時頃、帝都不祥事変発生。本會本部は、帝都不祥事変発生後、第一報 (2月26日) 第一報 (2月26日) 第二報 (2月27日) 第三報 (2月28日) 第四報 (2月29日) 第五報 (3月1日) 第六報 (3月2日) 第七報 (3月3日) 第八報 (3月4日) 第九報 (3月5日) 第十報 (3月6日) 第十一報 (3月7日) 第十二報 (3月8日) 第十三報 (3月9日) 第十四報 (3月10日) 第十五報 (3月11日) 第十六報 (3月12日) 第十七報 (3月13日) 第十八報 (3月14日) 第十九報 (3月15日) 第二十報 (3月16日) 第二十一報 (3月17日) 第二十二報 (3月18日) 第二十三報 (3月19日) 第二十四報 (3月20日) 第二十五報 (3月21日) 第二十六報 (3月22日) 第二十七報 (3月23日) 第二十八報 (3月24日) 第二十九報 (3月25日) 第三十報 (3月26日) 第三十一報 (3月27日) 第三十二報 (3月28日) 第三十三報 (3月29日) 第三十四報 (3月30日) 第三十五報 (3月31日) 第三十六報 (4月1日) 第三十七報 (4月2日) 第三十八報 (4月3日) 第三十九報 (4月4日) 第四十報 (4月5日) 第四十一報 (4月6日) 第四十二報 (4月7日) 第四十三報 (4月8日) 第四十四報 (4月9日) 第四十五報 (4月10日) 第四十六報 (4月11日) 第四十七報 (4月12日) 第四十八報 (4月13日) 第四十九報 (4月14日) 第五十報 (4月15日) 第五十一報 (4月16日) 第五十二報 (4月17日) 第五十三報 (4月18日) 第五十四報 (4月19日) 第五十五報 (4月20日) 第五十六報 (4月21日) 第五十七報 (4月22日) 第五十八報 (4月23日) 第五十九報 (4月24日) 第六十報 (4月25日) 第六十一報 (4月26日) 第六十二報 (4月27日) 第六十三報 (4月28日) 第六十四報 (4月29日) 第六十五報 (4月30日) 第六十六報 (5月1日) 第六十七報 (5月2日) 第六十八報 (5月3日) 第六十九報 (5月4日) 第七十報 (5月5日) 第七十一報 (5月6日) 第七十二報 (5月7日) 第七十三報 (5月8日) 第七十四報 (5月9日) 第七十五報 (5月10日) 第七十六報 (5月11日) 第七十七報 (5月12日) 第七十八報 (5月13日) 第七十九報 (5月14日) 第八十報 (5月15日) 第八十一報 (5月16日) 第八十二報 (5月17日) 第八十三報 (5月18日) 第八十四報 (5月19日) 第八十五報 (5月20日) 第八十六報 (5月21日) 第八十七報 (5月22日) 第八十八報 (5月23日) 第八十九報 (5月24日) 第九十報 (5月25日) 第九十一報 (5月26日) 第九十二報 (5月27日) 第九十三報 (5月28日) 第九十四報 (5月29日) 第九十五報 (5月30日) 第九十六報 (5月31日) 第九十七報 (6月1日) 第九十八報 (6月2日) 第九十九報 (6月3日) 第一百報 (6月4日)

YUNA

2004年生まれ、大阪府出身。4歳からダンスを習い始め、小学5年生から歌・演技のレッスンにも通い始める。当時から「ステージで輝くアーティスト」を目指し、中学1年生のとき、EXPG大阪校に入校。

2018年、『LDH Presents THE GIRLS AUDITION』に参加、1万人の中からファイナリストとなる。その後、HINATA、RUIとともにガールズユニットiScreamを結成。2021年、『Maybe...YES』でデビュー。

映画『鬼ベラシ』

未来の日本。人間と鬼の混血“鬼女”の根絶に国が放った施策。

それは鬼同士が命を懸けて戦うツノ狩りだった……。

鬼伝説の町・鬼北町で繰り広げられる妖怪

バトルエンターテインメントに

STU48の中村舞、信濃宙花や

ガールズユニットiScreamの

YUNA、HINATAなど

注目のアーティスト、

俳優たちが集結。

■監督・脚本：大森研一

■出演：中村舞、信濃宙花、

YUNA、HINATA、

杏花／土屋神葉

2025年初夏

全国公開予定



HINATA

2004年生まれ、宮城県出身。幼い頃からダンススクールに通う。

バックダンサーとして活動していたが、

「自分がアーティストになってパフォーマンスしたい」と

思うようになり、

中学1年生のとき、

EXPG仙台校に入校。

2018年、『LDH Presents THE GIRLS AUDITION』

に参加、1万人の中から

ファイナリストとなる。

その後、YUNA、RUI

とともにガールズユニット

iScreamを結成。

2021年、『Maybe...YES』

でデビュー。



iScream HINATA

iScream YUNA

映画初出演で“鬼”に。まわりは全員敵。生き残るために戦う！

Text：みやじまなおみ

Photos：安友康博



Vol. 178

圧倒的な歌唱力とダンススキルを持つ次世代ガールズユニットiScreamで活躍中のYUNAさんとHINATAさん。念願だった初の映画出演で「鬼」になった衝撃や、撮影のエピソード、作品の見どころについて聞きました。

1万人が参加したダンス&ボーカルオーディションを勝ち抜き、iScreamとしてデビューしたYUNAさんとHINATAさんが、今度は映画『鬼ベラシ』で生き残りをかけたバトルロワイヤルに参戦。もともと演じることに憧れのあった二人だけに、今作への出演は夢が叶った瞬間でもあったが、「初めての演技で鬼の役と言われて、衝撃も受けました」と口をそろえる。

特に難しかったのは戦うシーン。YUNAさんは「山中で激しいバトルを繰り返すのですが、何度も転びそうになりながら、ダンスの振り付けの要領でどうにかアクションをこなしていました」とのこと。一方のHINATAさんは、「鬼といっても戦いに慣れ

ているわけではなく、とにかく生きる」という気持ちだけで必死に戦いました。最後に誰が生き残って自由を得るのか、映画館でぜひご覧ください」と語る。

さて、この貴重な経験を生かして、さらなるステップアップを目指す二人の次の目標は？

「演技は引き続きやっていきたいし、音楽面では夢であるソロの楽曲もリリースできるよう、努力していきます」（YUNA）「制服が似合ううちに女子高生役をやりたいです（笑）。ファッションも好きなので、モデルなど服にかかわる仕事に挑戦したい」（HINATA）と意欲的。今後の活躍から目が離せない。



©2025
「鬼ベラシ」
製作委員会

口福につぼん

吉井省一

商店。海の無い奈良の地で、魚の栄養分や旨みを大切に創業者の想いを今も受け継ぎ、地元の皆さんに「揚げもん屋」として親しまれている人気店です。

本店ではできたての温かい「バターポテト」や「食いしん棒（割りばしに刺したさつま揚げ）」を手に、街歩きを楽しむ観光客の姿も増えてき



済生会の「病院・施設」がある県内の市町村

よしい・せいいち 一般社団法人日本作詩家協会理事。コピーライター時代に老舗百貨店の食の通販誌で約30年執筆に携わり、試食した食品の数は1万点を超える。

バレンタインデー、ホワイトデーなどのプレゼントシーズンもそろそろひと息つく頃ですね。

皆さんは、贈り物をする時にまず何を考えますか。相手の好みを考慮するのは当然ですが、私はそこに何かしらのサプライズを加えたい。相手に「えっ！」と驚いてもらい、その後ニコッと微笑んでほしい。

そんな私のアンテナに、最近ピピッと来たのが、高級チョコの詰め合わせかと見間違えうようなお総菜。おや、有名ブランドのスイーツが届いたのかなと思わせつつ、その予想を美味しく裏切るお洒落な贈り物。もちろんがんばった自分へのごほうびにも欲しくなっちゃう逸品です。

ポップでモダンな創作プチさつま揚げ

この新感覚のさつま揚げを創案したのは、古都・奈良でかまぼこ専門店として明治34（1901）年に創業した老舗「魚万



旨み溢れる豊かな味わいで日本の食卓を彩ってきたさつま揚げ。お酒のつまみとしても人気が高い

トリュフチョコみたいなさつま揚げ「クラシック」

魚万商店 奈良市

たとか。奈良を訪れた際にはぜひ立ち寄りたいものです。従来のさつま揚げに加えて、新たな創作さつま揚げブランドとして生まれたのが「トリュフ」。

「トリュフ」は、インターネット通販のみ

の販売。バレンタインデーなどの季節限定バージョンもありますが、今回は一年中販売している「クラシック」を選択。内容は「バジルチーズ」「ピンクハート」「チョコナッツ」「ピーナッツバター」「わか草コーン」「アヒージョボール」「栗かぼちゃ」の8種類です。

こちらは、とても画期的な食品なので、第66回全国水産加工たべもの展で農林水産大臣賞を受賞したり、人気テレビ番組で紹介されるなど、今や全国的に注目の的。味への期待はいやが上にも高まるではありませんか。



出来立てを散策がてら味わえる「もちいどの本店」

老舗の職人技が生み出す和洋織り交ぜた8種の味

高級チョコレートを連想させる箱の中にとさつま揚げが入っているなんて、いったい誰が想像できるでしょう。それでは一口サイズの8種類の味を一つずつ。「バジルチーズ」はバジルの爽やかな香りとチーズのコクが味わい深く、食欲をそそります。さすが人気ナンバーワン。「ピンクハート」は可愛いハート型の揚げかまぼこ。プリプリの食感も心地よく味もまろやか。「チョコナッツ」は甘いチョコレートと魚のすり身が意外と相性がいいことにびっくり。



上は、魚の白身などを大きな石臼で練り、それを付け包丁で成形し、直接油に入れて揚げる「直揚げ」工程。この他、成形後に一度蒸してから揚げる「蒸し上げ」製法もあり、「クラシック」は後者を採用している

バジルチーズ

ピンクハート

栗かぼちゃ

アヒージョボール

ゆば巻

ピーナッツバター

チョコナッツ

わか草コーン

箱を開ける・驚き・そして笑顔。この「旨みの玉手箱」には心を暖かくしてくれる力がある



ホームページには食欲を誘うさつま揚げがたくさん。好みの一品がきっと見つかるはず

彩りもバラエティ豊かに仕上がるなんて、まさにサプライズ。「〇〇記念日にはさつま揚げを贈ろう！」なんてトレンドが来る日も近いかもしれませんね。

トリュフチョコみtainさつま揚げ「クラシック」
[8種×各2個 計16個]
3,510円(税込・送料別) 賞味期限……製造日より6日間

お取り寄せ・お問い合わせは
魚万商店
〒630-8222 奈良県奈良市餅飯殿町 16
ホームページ: <https://www.uoman.jp>



キュートなあひる

かわいいティッシュボックスかざり

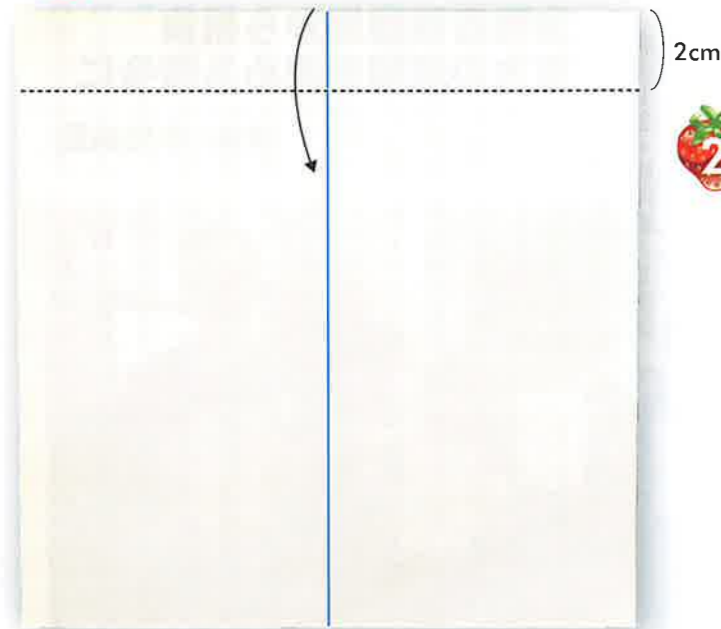
作品 いまいみさ



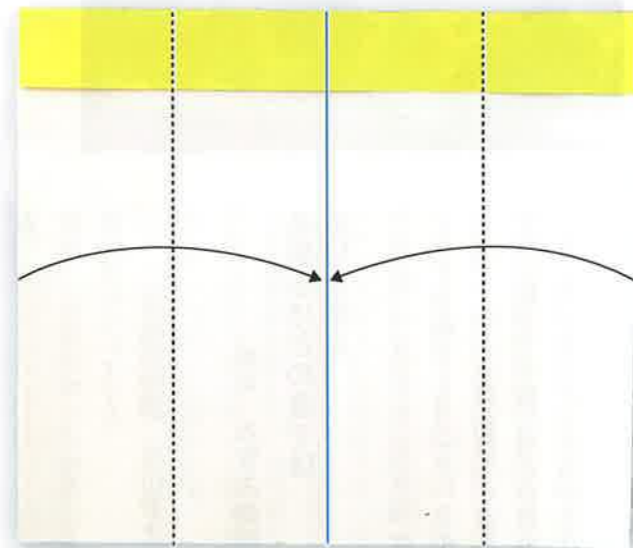
--- 山折り
 谷折り
 ↺ 裏返す

あひる

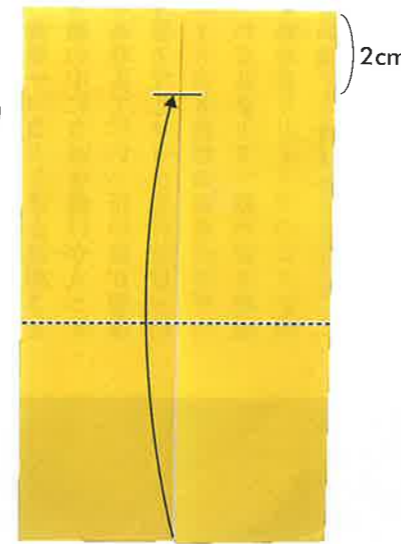
1 中心線をつけて上の辺を折る



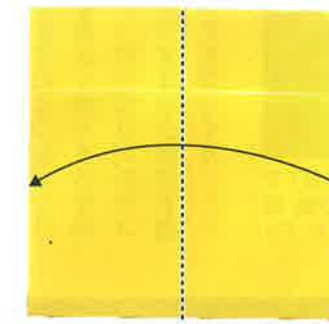
2 中心線に合わせて左右の辺を折る



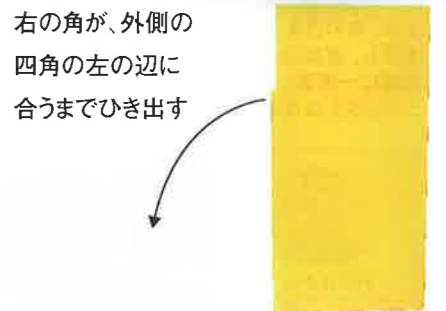
3 下の辺を折り上げる



4 半分に折る



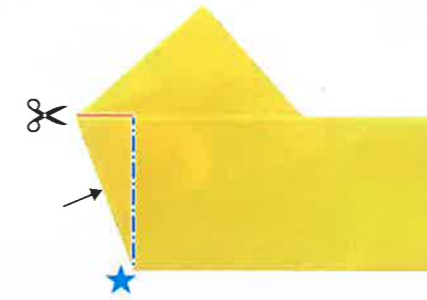
5 内側の四角を右の角が、外側の四角の左の辺に合うまでひき出す



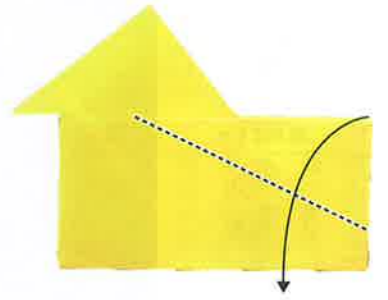
6 向きを変える



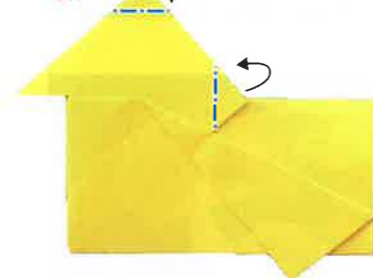
7 図のように切りこみを入れ、左の辺を内側に折りこむ



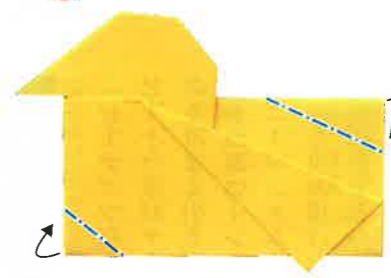
8 右の角を折る



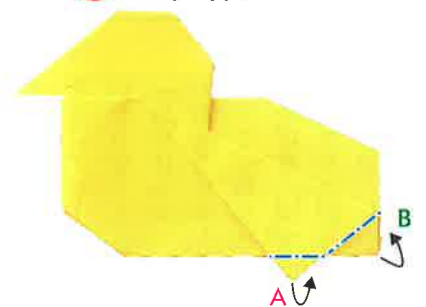
9 点線で折る



10 点線で折る



11 Aを内側に、Bはうしろに折る



12 くちばしに丸シールをはってうしろに折る。または色を塗る



ティッシュボックスに折り紙をはり、葉や花などをかざってもキュート♡

13 顔をかいて完成 (丸シールをはると簡単だよ!)



【いまいみさ】手づくりおもちゃ作家。折り紙や牛乳パックなどをリサイクルして手づくりの楽しさを伝えていきます。著書に「365日たのしい折り紙」(日東書院)、「12か月のおりがみ壁飾り」(講談社)など39冊。最新刊は「1年中使える! 決定版おりがみ図鑑」(講談社)。

動画もcheck!

作品・折り図: いまいみさ おりがみ協力: 株式会社トーヨー



福井県済生会病院内保育所ぼっかぼか園で節分会を開催。今年も元気で過ごせるように子どもたちと願いました(詳細はP49)

topics

法務省保護局から視察 双方の理解を深める機会に

(東京) 中央病院

1月22日、法務省保護局総務課の方々からソニーシャロン事業の取り組みについての視察と、ホームレス専用病棟の見学のために来院しました。当院社会貢献推進委員会、東京府更生保護協会・幸島聡事務局長を含む参加者9人の交流の場となりました。



はじめに、社会貢献推進委員会の町田洋治委員長から、当院の概要とソニーシャロン事業の取り組みを紹介。参加者からは積極的に質問が寄せられ、双方の理解を深める機会となりました。

その後、ホームレス専用病棟へ移動し、実際の医療現場を見学しました。このような取り組みを今後も継続的に行なうことで、当院が更生保護領域でどのような役割を果たし、連携を強化できるのかを含め、つながりを深めていきたいと考えています。

(済生記者 鈴木香純)
★日本で唯一のホームレス専用病棟。「施薬救療」の精神が具現化されていますね。

(本部広報課 杉山菜央)

(熊本) みすみ病院

名乗るほどの者ではありません

当院の近くを走る国道266号線で1月28日に発生したバイクと普通乗用車の交通事故の件で、宇城広域連合南消防署三角分署長から電話がありました。



左から三角分署長、消防隊員、大村祐子看護師、石田由紀子看護部長

帰宅中に現場を通りかかった当院スタッフが救命処置を行なったそうで「直接お礼を伝えたい」とのことでした。現場で氏名を確認できなかったようので、当院で調査したところ、病棟看護師の大村祐子さんだったことが判明。2月3日、お礼と当時の状況確認を兼ねて分署長と消防隊員1人が来院しました。

(済生記者 船橋麻紀)

〈福岡〉飯塚嘉穂病院 病院全体で生成AI導入 業務効率アップを

当院では1月から業務効率化を目指して生成AIを導入し、各部署にアカウントを配布しました。

議事録作成を自動化する商品

を探索中で「文字起こしができる生成AI」の導入を決定。実際に使ってみると要約の精度が高く、議事録作成の手間が大幅に削減できました。生成AIは医療現場での他の用途でもさらなる活用が期待できます。例えばマニュアルをAIに要約させておくことで、チャット形式で質問に答えられるように。分厚いマニュアルをめくらずに必要な情報に素早くアクセスできるようにすれば、業務効率がさらに向上します。今後、幅広い業務への展開が期待される反面、使いこなすに

〈山口〉下関総合病院 医師から診療放射線技師へ タスクシフトがスタート

12月3日に開催した静脈路確保のための研修(本誌2025年2月号「トピック」掲載)には

診療放射線技師17人が参加しました。

参加者は研修後も血管モデルを使用した穿刺の練習を積み重ね、看護部臨床実践能力向上委員による技術の確認を経て、12月17日に診療放射線技師の静脈路確保技術習得第一号を認定。現在までに4人が認定を受けま



認定取得者は病院長の許可を得て、放射線科医師の指示のもと静脈路を確保し放射性同位元素の投与が実施できるように。放射線科医師から診療放射線技師へのタスクシフトが始まりました。今後、病院全体で各職種が安全に業務を拡大し、専門性を発揮しながら質の高い医療を提供していきたいと思っています。

(副看護部長 松田直子)

山口総合病院

当院初のがんイベント

2月4日の「世界対がんデー」に合わせて、がん化学療法委員会と北5階病棟の看護師が中心となり、がん相談会を開催しました。

当日は58人が来場。看護師7人と医師など多職種が相談コーナーやがん検診の啓発、副作用コーナーを設けて啓発活動を行いました。

午後には医師の講演会と患者交流会が実施され、17人の患者



さんが参加。交流会では、治療の体験談や生活の中での生きがいについて話があり、参加者からは「がんの話ができて良かった」との感想が寄せられました。今回のイベントは当院では初めての取り組みでしたが、スタッフにとっても患者さんの声を直接聞く貴重な経験となり、励まされた気持ちになりました。
(がん薬物療法看護認定看護師 村中千恵美)

奈良病院

プログラム充実の学術集会

日本医療マネジメント学会第19回奈良支部学術集会が2月1日、JR奈良駅前にあるホテル日航奈良で開催されました。

そべって滑ったり、手や足、体全体を使って雪を踏みしめ急な上り坂を上ったり。また、動物の足跡を見つけたり冬芽を観察したりと、たくさん自然に触れることもできました。

スリル満点のチューブそり滑りでは二人一組でチューブに乗り、コースを駆け下りました。体いっぱい風に感じ、普段の保育園ではできない体験に子どもたちは目を輝かせていました。

子どもたちは「楽しかった!」「またチューブそりしたい!」と声を上げ、忘れられない



今年度は当院が担当病院ということで昨年から実行委員会を立ち上げ、準備会議を幾度と行ない、開催当日を迎えました。メインテーマは「和の心で繋ぐ医療ESとPSの両立を目指して」。株式会社ヴィジョンナリ・ジャパン代表取締役の鎌田洋さんによる特別講演、シン



ポジウム、ランチョンセミナー13題、さらに一般演題として85演題を17のセッションにしたポリウム満点のプログラムを準備しました。想定を上回る約360人の来場があり、うれしい悲鳴を上げることになりました。

い経験となりました。

(済生記者 宮本亜実)

〈埼玉〉川口乳児院

ユニット化へ向けて異年齢で練習を開始

令和8年度の新築移転を見据え、1月から縦割り(異年齢構成)のユニット化へ向けて練習を始めました。

現在、月齢で二つに分かれているクラスの中から異年齢5人で1グループを作りました。メンバー構成は3歳児、2歳児、1歳児が1人ずつ、0歳児2人です。

ユニット練習に際して、職員が殺風景な休憩室を、手作り家庭に近い柔らかい雰囲気になりフォーム。暗い雰囲気だった砂壁も、ペンキを塗ってとても明るくなりました。コロナ禍により異年齢が交流する機会が減ったため、職員にとっても新鮮な光景です。初めて聞かないですが、3歳の子が年下の子を意識するように、お人形を抱っこして優しく



した。

開催中、細々としたトラブルが発生しましたが、スタッフが協力して問題を解決。当院スタッフの団結力も垣間見ることができました。

(地域福祉支援室主任

川向 透)

〈富山〉幼保連携型認定

こども園なでしこ保育園

ダイナミックにチューブそり滑り!

1月27日、国立立山青少年自然の家で年長児・年中児48人が冬の自然活動体験「立少トントンたんけん隊」に参加しました。



午前中はトントンの森を散策し、午後は雪山でチューブそり滑り。トントンの森散策では急な下り坂をお尻で滑ったり、寝

揺らし、トントンと寝かし付けをする姿が見られるようになりました。

(済生記者 大貫典子)

岡山済生会看護専門学校
教員と連携して臨床指導
者が直接指導

岡山済生会総合病院・岡山済生会外来センター病棟の臨床指導者と当校教員が連携し、実習指導をより効果的に行ない実習内容の充実を図るために、月1回の臨床指導者を開催してい



ます。毎年1月は2年生への技術指導を実施しています。

今年も1月8日から3日間、延べ40人の臨床指導者が当校実習室で1時間の技術指導を行ないました。指導項目は酸素療法、吸引、持続導尿、浣腸、血糖測定、採血の六つです。

臨床指導者は、教員の説明を受けて演習している学生の技術を指導。実際の看護場面と状況は異なりますが、患者さんに行なう場合のポイントなどを学生に分かりやすく説明してくれていました。

学生は実習でお世話になる臨床指導者からの指導で緊張して

いる様子でしたが、1月末から実習が始まるため真剣に取り組んでいました。

(教務主任 藤原敏恵)

〈埼玉〉川口総合病院
医療機器の寄付に感謝

青木信用金庫からノートパソコン3台とナースカート3台を寄贈いただき、12月26日に当院で寄贈式を行ないました。

青木信用金庫は地域とのつながりを大切にし、さまざまな支援活動を積極的に行なっています。今回の寄贈はその一環です。寄贈式には佐藤雅彦病院長や清水吉則事務部長が参加。佐藤



病院長は「このたびのご寄贈に心より感謝申し上げます。いただいたノートパソコンとナースカートは、院内の業務効率化や患者さんへのより良い医療サービスの提供に役立ててまいります」と、感謝の意を述べました。

(済生記者 原 衣里奈)



岡山済生会総合病院

女性指導医対象の奨励賞
成田上席診療部長が受賞

12月14日、令和6年度「天晴れジョイボスアワード」の奨励賞を眼科の成田亜希子上席診療部長が受賞しました。

この賞は岡山県医師会が岡山県、岡山大学、川崎医科大学と共に女性指導医の活躍を促進し、

次世代の女性指導医を顕彰するために創設されたもので、今回で7回目となります。

受賞講演では「緑内障スペースヤリストへの道『The Journey』」と題し、新任時代のエピソードや、緑内障患者さんとの強いつながり、海外での研鑽など多岐にわたる経験を紹介しました。

適切な治験の実施、品質確保で感謝状授与

1月22日、医療用医薬品・ワクチンを扱う製薬会社のMSD株式会社から当院臨床研究センターの臨床研究コーディネーターへ感謝状が贈られました。

臨床研究コーディネーターとは、治験や臨床研究を行なう際に患者さんの安全性や人権を守りながら、医師や製薬会社、関係部署と協力・調整を行なう専門スタッフです。

今回は世界的に見ても症例が集まらない肝疾患を対象に当初5例想定のところ最終的に15例を組み入れたこと、治験責任医師のみならず治験関連スタッフとの円滑なコミュニケーションにより適切な治験実施を行なっ



横浜市東部病院・臨床研究センターの皆さん

成田上席診療部長は「患者さん一人ひとりの視機能を守ることを最優先に考え、それぞれに最適な治療を提供できるよう努力していきます。また、後進の育成にも力を入れていきたいと考えています」と今後の抱負を語りました。

(済生記者 高畑貴子)

〈神奈川〉横浜市東部病院

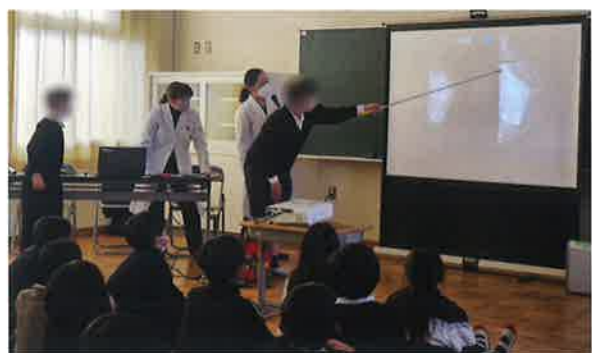
たこと、そしてタイムリーで適切なデータ入力とクエリ回答によりデータの品質確保に尽力したことが評価され、表彰されることになりました。

(済生記者 荒木愛美)

自分や家族の命を守るために

滋賀県病院

1月22日、河原絵里医師と小島真世医師、そして診療放射線技師である筆者が、葉山東小学校的6年生75人を対象に「がん教育」の授業を行ないました。当院では6年前から、外部講師としてこの教育活動に参加しています。



子どもたちが成人した際に、自分や家族の命を守るためにがんについて理解し、生活習慣の改善を進めてくれることを期待しています。

(健診センター 鰐部亜砂子)

topics



移植医療のシンボルカラー・グリーンにライトアップ

会の主催で職員に向けて「腎臓移植の現状と未来」と題した講演会を開催し、98人が参加しました。熊本赤十字病院移植外科部長の山永成美医師が講師を務め、移植医療に関する最新の知見を共有しました。

山永医師は、移植医療の現状や未来について詳しく説明し、参加者から多くの質問が寄せられました。特に救急医療に携わる医師から熱いメッセージが伝えられ、参加者の関心の高さがうかがえました。

当院ではこれまでに心肺停



開院64周年記念式典並びに鳥取県済生会表彰式

〔鳥取〕境港総合病院 開院64周年 & 職員表彰 地域医療を支える

1月15日、当院会議室で開院64周年記念式典および鳥取県済生会支部による令和6年度職員表彰式が開催されました。

開院式典では佐々木祐一郎病院長が冒頭に挨拶。被表彰者に向けてこれまでの努力に対する敬意を表した上で、今後の当院や当院を取り巻く環境への展望などを話しました。

続いて表彰式では、功労表彰として11人と7部署、永年勤続表彰として勤続30年8人、20年



止下腎臓提供2例、脳死下臓器提供6例を実施しています(2024年12月時点)。今後移植医療を推進するため、院内外から講師を招き、定期的な講演会を開催する予定です。

(済生記者 岩瀬 桃)



〈奈良〉老健シルバーケア まほろば

今日はシチュー作るんやで

2月13日、2階入所棟で料理レクリエーションを行ない、12人の利用者さんが参加しました。皆エプロンを付け、やる気満々。「ピーラーより包丁の方が扱いやすいわ」と上手に包丁で野菜の皮をむき、一口大に切っています。

14人、10年10人が表彰されました。

豊島良太支部長が被表彰者にお祝いの言葉を送り、表彰状と花束を贈呈しました。被表彰者を代表して永年勤続30年の畑中希美看護師長が謝辞を述べました。

会場の皆が、職員一丸となって地域医療を支える決意を新たにしました。

(済生記者 亀尾美子)

奈良県済生会

コンプライアンス研修で より良い職場づくりを

2月4日、令和6年度コンプライアンス研修会を開催し、支部管内各施設から73人の管理職が参加しました。

支部事務局から内部通報制度の運用状況を報告後、講師の中和病院・辻内雅彦事務部長から法令順守の重要性や、済生会をはじめ過去のコンプライアンス違反事件について学びました。

また、グループワークでは「コンプライアンス遵守の職場をつくるために」をテーマに、職種別に各職場での気になる言動について実例を出し合い、職種・



世代によりハラスメントに関してさまざまな捉え方があることを認識。管理職としてのより良い言動のあり方について話し合いました。

参加者一同、コンプライアンス遵守の職場づくりに努める意識を新たにす有意義な研修となりました。

(済生記者 山岡陽子)

熊本病院

移植医療の最先端を知る

1月31日、当院移植医療委員会

材料は一緒やけど、今日はシチュー作るんやで——そんな会話を楽しみながらグツグツ煮込んでいきます。

具材に火が通ったか竹串で確認すると、パクリとつまみ食い！周りのスタッフからは一斉に「あー!!」と叫び声が上がりましたが、ご本人はニコニコ満足げ。そんなハッピーニングもありつつ、美味しいクリームシチューができました。

(済生記者 林 嘉夏)



30人前の材料を切り終えた後、「量が多いから重たいな」「焦がしたら野菜切った人に怒られるわ」と話しながら頑張って炒めてくれました。

「これはカレー?」「違うでー!」



福島総合病院での放射線技師研修に参加

〔福島〕川俣病院

昨年9月2～30日、福島総合病院で行なわれた診療放射線技師研修に当院から筆者が参加しました。
内科を中心とした診療を行なっている当院では、放射線室としては検査モダリティや救急対応の機会が少ない側面があります。そこで、当院診療放射線技師の技術や知識の向上を目的として、多くの症例がある福島総合病院で研修を実施していただきました。



での胸部ポータブルX線撮影に切り替えるなど、多職種で連携して患者さんの治療にあたりました。救急対応における緊張感は、最も印象に残っている経験です。
1カ月間の研修ではスタッフの皆さんの丁寧な指導のもと、多くの技術・知識・モダリティを学び、技師として貴重な経験を積むことができました。

肥満を解消して健康に

岡山済生会総合病院

〔放射線室 佐藤瑠璃〕

12月14日、当院さいゆうホールで第36回市民健康セミナーを開催しました。テーマは「肥満と糖尿病治療の新时代～最新治療法で変わる未来～」。利根淳仁診療部長、栄養科・岡田彩管理栄養士、リハビリテーションセンター・寺野寛己理学療法士が講演し、91人が参加しました。利根診療部長は、肥満が健康に及ぼす影響、食事を中心とした減量法や肥満外来での治療内



容について解説。岡田管理栄養士は、無理なく継続できる食事改善のポイントや工夫を紹介しました。寺野理学療法士は肥満と不良姿勢の関係について、日常生活に取り入れやすいストレッチ法の実演も交えて話しました。
参加者からは「肥満治療について具体的に理解できた」「ダイエットや健康維持へのモチベーションが高まった」などの感想が寄せられました。

〔済生記者 高畑貴子〕



心を込めて地域の清掃 県から感謝状表彰

〔愛媛〕西条病院

常光謙輔名誉院長の発案で、平成18年から毎月第3土曜日の朝に当院周辺の幹線道路の清掃活動を行なっています。10年ほど前には愛媛県から打診され「愛ロード・サポーター事業」に登録。道路の美化活動を行なう県の事業に協力しながら活動



してきました。この事業が開始して10年を迎えることから、11月18日、継続して活動する当院に県から感謝状が授与されました。
清掃活動を始めた当初は、道路はもちろん歩道や中央分離帯にもタバコの吸い殻や空き缶の投げ捨てなどが見られ、たくさん

山形 老健フロアさいせい老健の特色をアピール

〔事務長 矢野泰利〕

んのごみを回収していました。最近では当院の取り組みが地域住民から共感を得たのか、ごみの量がだいぶ減ってきています。今回、県からいただいた感謝状を糧に、これからも「ごみゼロ」を目指して活動を継続していきます。

〔済生記者 岩城伸幸〕

2月13日、山形済生病院南館会議室で「フロアさいせい情報交換会」を開催しました。この会は、地域の居宅介護支援事業所を対象に老健の周知を目指すもので、14人が参加しました。会では、老健の特色、他施設との違いや活用方法、受け入れ事例などを詳細に説明。具体的には、当施設が全国的に高い在宅復帰率と回転率を誇る超強化型の老健であり、リハビリに力を入れていくこと、山形市内で唯一認知症短期集中リハビリを提供していること、緊急時の受け入れ相談や生活困窮者への無料低額老健利用事業を行なっていることなどを紹介しました。また、施設内を見学してもら



topics



歌や踊りを披露。1日20人ほどの利用者さんが場を盛り上げてくれました。その様子を写真に残そうとしましたが、利用者さんはピン트가ボケてしまうほど体を揺らしたり手拍子をしたりしていました。

歌謡ショーの次はビンゴゲーム。上位3人まで景品を用意しました。リーチになると利用者さんの熱気が職員にも伝わってきます。期待していた番号が出なかったときは大きなため息が聞こえてくるほどでした。

当日は50人が参加し、絵に隠された危険を予測し事前に手立てを考えるトレーニングを実施。参加者全員で意見を出し合うことで、一人では想像できなかった危険に気づくことができ、周囲との関係性を構築することや情報共有することの重要性を学びました。

「安全とは危険がない状態、特殊である」との話聞き、改めて平和な日常を送れることに感謝し、介護現場や日頃の生活でもどこにもある危険を察

1月14日から3日間、(神奈川県)横浜市東部病院医療安全管理室の職員3人を講師に迎え、当施設職員向けに「危険予知トレーニング」研修を開催しました。

危険予知トレーニング

〈神奈川県〉 特養わかかさ

皆さんにはシクラメンの鉢植えをクリスマスプレゼントとして贈りました。お花は多くの人に喜ばれ、家でもお世話をしていると聞きました。笑顔いっぱいのお楽しみ会になりました。

(ふじの里) サイバーセンター
通所介護課長 山下芳樹



知する洞察力を養う意識が大切だと感じました。

(生活相談員 長澤さち子)

救急業務協力者として表彰

〈東京〉 向島病院

昨年9月26日、向島消防署から「救急業務協力者」として表彰を受けました。当院は墨田区北部地域で「内科系の救急搬送は断らない」をスローガンに活動しており、コロナ禍でも積極的に患者を受け入れてきました。



コロナ禍以降は救急隊員に休憩スペースを提供し、夏場は冷えた飲み物を用意するなど、しよつちゅう「救急車ひっ迫アラート」が発令され多忙な救急隊員が少しでも休めるように配慮した活動を行っています。

表彰状の贈呈式は向島消防署から署員の方々が来院し、当院で行ないました。臨床検査科の上原和夏臨床検査技師が当院代表として表彰状を受け取りました。

なお、表彰状の日付は救急の日になんで9月9日付になっていました。

(済生記者 加藤建志)



これからもご支援、ご指導をよろしくお願いいたします

開院1周年 救急搬送数6500件超

新潟県央基幹病院

昨年3月1日に開院した当院は、診療科を少しずつ拡充しながら無事に1周年を迎えることができました。

「県央地域の患者は県央で診療」という使命のもと、地域医療の要として、多くの患者さんを受け入れてきました。外来・入院診療に加え救急医療にも尽力。年間6000件を想定していた救急搬送数は約

男女の性別に関係なくいきいきと働ける職場を

〈埼玉〉 加須病院

2月9日、市民プラザかぞで「加須市男女共同参画推進事業所表彰」を受賞しました。これは男女の性別にかかわらず対等に個性や能力が発揮できる職場づくりに取り組み、従業員がいきいきと働いている事業所を加須市が表彰するものです。

当院は男性看護師の積極的な人材確保を行なっていること、子育て中の職員のための休暇や短時間勤務制度、病院併設の院内保育室・病児保育室の設置な



ど、職員が安心して仕事を継続できるようなバックアップ体制

6500件にのぼり、地域の皆さんの支えに深く感謝しています。

一方で、患者数の増加に伴い、待ち時間の長期化などの課題も生じています。今後もこうした課題を一つひとつ解決しながら、地域に根ざした病院としてより良い医療を提供できるよう努めていきます。

(済生記者 渡邊真衣)

歌やビンゴに大興奮

〈兵庫〉 特養ふじの里

12月19・25日に、デイサービ



スでお楽しみ会を開催しました。今年も歌謡ショーをテーマに職員が仮装し、各日2〜3人が

があることを取り組み内容として応募しました。

受賞に際して板橋道朗院長は「当院では医療を通して地域に貢献していくことを目指しています。そのためには男女ともにいきいきと働ける職場環境の整備が必要で、今後も病院体制の強化に真摯に取り組みます」と話しました。

(済生記者 蓬田絵里子)

管理栄養士が自宅へ
栄養指導で低栄養予防

〈東京〉中央病院

東京都栄養士会 栄養ケア・ステーションが港区から委託された訪問栄養指導事業に、当院の3人の管理栄養士が昨年9月から参加しています。



この事業はフレイル予防の一環で、低栄養のリスクが高い低体重の高齢者を対象に管理栄養士が自宅を訪問。栄養改善のための具体的な目標設定を本人と一緒に考えます。保健所職員の電話による支援を経て、初

回と同じ管理栄養士が再度訪問し目標達成度の評価を行ないます。対象者からは「自分に足りない栄養のことがよく分かった」



「同じ人が来てくれて安心感がある」などの声をいただいています。実際に訪問することで食事以外にも生活に関わる情報を把握でき、より効果的な提案ができました。これは病院内の業務に

も生かせる経験だと思えます。
(栄養管理科 丸山新人)

〈茨城〉常陸大宮済生会病院
3回目のフードドライブ
食料品100点集まる

昨年11月25日～12月20日、職員更衣室通路前に「きずなBOX」を設置し、職員から食料品などの寄付を募るフードドライブを実施しました。

当院では3回目の試み。多くの職員の善意により飲料水や乾麺・レトルト食品などの食料品100点、段ボール3箱分が集まり、12月26日にフードパ



ック茨城水戸支部へ届けました。フードバンク茨城では、連携している自治体や社会福祉協議会等を通じた生活困窮

者自立支援のための食品ニーズに定めるほか、児童養護施設等の福祉施設に調理用、おやつとして提供しています。フードバンク茨城の古川文久理事からは「年末年始に向けての寄付が非常にありがたいです。引き続き、よろしくお願いします」とお礼の言葉をいただきました。
(済生記者 笠井康宏)

〈神奈川〉横浜市南部病院
未来の医療職への第一歩

1月24日、近隣の中学2年生6人が当院で職業体験を行いました。

当日は順番に看護師、リハビリ技師、臨床検査技師、薬剤師、診療放射線技師と、さまざまな医療職の現場を体験。普段は見ることのない病棟やバックヤードの部分の見学、心エコーなどの医療機器を用いた体験、患者さんも実施している作業療法の体験などを行ない、皆さん興味津々でした。



に興味があつて参加したが、他の職種にも目が向けられ、興味が湧いた」「どの部署の方々も明るく笑顔で、自分もそんな大人になれたらいいなと思った」といった感想を聞くことができました。

(済生記者 小澤郁斗)

〈広島〉老健はまな荘
広島地区施設学会で
支部長賞を受賞

済生会広島地区施設学会が11月20日に開催されました。新型コロナウイルスの影響で5年ぶりの開催です。当施設からは介



護職員の小柳洋美さんが「眠りSCAN・見守りカメラeyeインカム導入の効果」を生産性向上への期待と課題」をテーマに発表しました。

この結果は12月20日に開催された済生会広島親睦会忘年会の中で発表され、当施設が8演題中最多得票を獲得し、支部長賞として表彰されました。

発表者の小柳さんは忘年会当日は夜勤のため欠席。作業療法士の山岡智紀さんが代理で表彰状と副賞の図書カードを受け取り、後日行なわれた運営会議で小林博文施設長から伝達表彰を受けました。
(済生記者 佐藤 聡)



岡山済生会総合病院
乳がんについて知りたい!

12月19日、清心女子高等学校の2年生1人が、付き添いの先生とともに乳がんの探究活動で当院を訪れ、乳腺内分泌外科の工藤由里絵医長と話をしました。探究活動は、生徒の興味関心に



応じて授業の一環として行なわれています。

生徒は将来診療放射線技師になりたいそうで、乳がん検診やマンモグラフィーについて熱心に質問しました。話を聞き終えた生徒からは「直接お話が聞け

てより学びを深めることができず。『女性が乳房の状態に日頃から関心を持ち、変化を感じたら速やかに医師に相談するという正しい受診行動を意識することが大切』というお話が一番印象に残った」との感想がありました。

この訪問が夢へのサポートになれば幸いです。

(広報企画課 課長補佐 中村貴美子)

〈北海道〉小樽病院

QC北海道大会で
参加3チームが優良賞

1月25日、札幌コンベンションセンターでQCサークル北海道支部のQC大会が開催され、小樽病院からは11月の院内大会で選ばれた3チームが参加しました。

経理課チーム・価格ナビゲーターズは「ポストコロナの健全経営に向けて」診療材料費 価格適正化、薬剤部チーム・Sho. Duneは「業務改善 収入増(退院時薬剤情報管理指導料算定取得率UP)」、放射線室チーム・白いオソマは「マギリのような鋭い眼で胃がんの見落と



し防止」をそれぞれ発表しました。

大会には医療福祉部門8チームが参加。当院は3チームとも優良賞を受賞し、大会参加者から高い評価を得ました。発表者は他医療機関の事務長と情報交

換ができ、さらに各医療機関の取り組みを聞くなど刺激になったようです。

(QC活動実行委員会/小樽老健はまなす 済生記者 伝法俊和)

〈茨城〉水戸済生会総合病院
高度急性期医療の充実を

当院のICUは高度急性期医療のさらなる充実を目指し、2023年2月にリニューアル



ル。今年2月に改修3年目を迎えました。

改修直後は、運用や教育の都合から稼働率がなかなか上げられない状況でしたが、今年度は術後患者や重症患者の緊急入院、

院内急変患者等を受け入れ、稼働率約90%を維持できるようにしました。

ICUには認定看護師や看護師特定行為研修修了者、フライトナース、DMAT隊員などのスペシャリストが配属されており、高度急性期の責務と誇りを持って各分野で活躍しています。重症患者の医療的介入やケアは高度なものが求められますが、医師を中心に多職種で合同カンファレンスを実施し、専門性の高いチーム医療を提供しています。

(ICU副看護課長 山田知弥)

〈岩手〉北上済生会病院
市民公開講座と連携

1月27日、当院の市民公開講座が北上市の健康福祉ポイント事業「きたポ」の指定を受けました。「きたポ」は、市民の健康づくり活動や社会参加活動を奨励し、健康寿命の延伸を目指す事業です。市が指定する健康づくり活動に参加すると、スマートフォンアプリで「きたポ」が付与され、これを電子マネー等に交換できます。



当院は、既に「きたポ」対象のウォーキングコースに指定されていますが、市民公開講座を通じてさらに市民の健康寿命の延伸に寄与できると考え、北上市に相談。今回、対象事業の指定を受けました。

病気の予防や早期発見・早期治療が可能となる正しい知識を伝えるとともに、皆さんが知りたい情報をお届けできるよう、引き続き取り組んでいきます。

(済生記者 掛川千恵子)

〈埼玉〉加須病院
初の水害机上訓練

2月6日、当院講堂で水害机上訓練を実施しました。当日は加須市役所・新久喜総合病院の職員がオブザーバーとして来院。当院からは災害対策委員会メンバー・施設担当者、



院内保育室スタッフ合わせて25人が参加しました。当院は新築の際に敷地に土を盛り、地表面を高くしているため浸水の危険性は低いものの、病院近隣で浸水した際の初動対応は検討しておく必要があります。各グループにDMAT隊員1人がファシリテーターとして入り、多職種で水害時に想定されること・対応方法などを話し合いました。

今回話し合った内容をもとに、初動対応の明確化、水害対策訓練の実施に向けたブラッシュアップを行なうとともに、平常時からの備えを病院全体で強化していきます。

(済生記者 蓬田絵里子)



topics

「悪いもの」を追い出そう

2月3日、入居者さん49人、職員13人が参加し、西館の各フロアでお寿司を食べて鬼退治をしました。

利用者さんには事前に新聞紙を丸めて豆まき用の豆を作ってもらっていました。当日は「1年間、健康に過ごせるように」という願いを込め、「悪いもの」を追い出す行事として、童心に戻った気持ちで楽しく豆まきをしました。中には「鬼退治したらかわいそう」と言う人も……。豆まきができない利用者さんは、鬼さんと2ショットで写真



撮影を楽しみました。

(西館介護課 介護士

堤 佳恵

〈新潟〉特養康和園

紅白玉で豆まき

2月3日、節分に合わせて豆まきを行ない、1・2階合計100人ほどの入居者さんが参加しました。

当日は職員が赤と緑の鬼の仮装をして登場。入居者の皆さんから豆の代わりに当たっても痛くない紅白玉が投げつけられ、大いに盛り上がりました。

優しく投げる人、鬼を追いかけて積極的に投げる人、勢い余って鬼の向こう側にいた入居者



さんに当ててしまう人など、それぞれが思い思いの投げ方で豆まきを行ないました。

「豆を投げることで一年の無病息災を祈る」という節分のならわしを守りつつ、笑顔あふれる時間を過ごすことができました。

また、節分の日の特別な献立が振る舞われ、入居者の皆さんはいつも以上に楽しい一日を満喫していました。

(済生記者 山田裕樹)

〈山形〉はやぶさ保育園 心の鬼を退治できたよ!

2月3日、園児111人で豆まきを行いました。3〜5歳児65人は豆まき本番に向け、



事前に鬼の弱点を調べ、鬼退治のための武器作りを頑張って進めていました。

当日は皆でダンスやゲームに取り組みなど楽しい雰囲気の中、鬼が登場! 3〜5歳児は異年齢で協力しながら、数グループに分かれて鬼退治に臨みました。

怖くて涙を流す子もいましたが、自分より年齢が小さい子がいると守ってあげる姿や、作った武器で精いっぱい戦う姿も。

鬼退治後は、心の中の鬼も退治することができたようで、満足そうな表情を浮かべている子がたくさんいました。

0〜2歳児46人は各保育室で

鬼と一緒に写真撮影をしたり、鬼に触れたりと節分の雰囲気味わっていました。

給食では大きな口で恵方巻を頬張り、皆幸せそうな表情を浮かべていました。

(済生記者 齋藤里奈)

かわいい鬼さんはいつでもウエルカム

〈北海道〉小樽老健はまなす

2月3日の朝、何気なく廊下を歩いていると鬼の(仮装した)3人組が……。正体は、訪問歯科で大変お世話になって

いる「あかり歯科(山口大樹院長)」のスタッフの皆さんでした。

毎年クリスマスと節分には仮装したまま移動し、施設や自宅などを訪問しているとのこと。歯科診療中も鬼の格好のままです(笑)。

明るくノリの良い鬼さんたちは写真撮影にも快く応じてくれ、本誌に投稿してもいいかと聞くと「喜んで!」。掲載されるの

長崎病院

鬼さんにバイバイ

2月3日、託児所の子どもたち12人が参加し、豆まきを行いました。子どもたちはトラ柄のパンツやお面を身に着け、手には豆やカラーボールを持ち、臨戦態勢もバッチリ。そこへ赤鬼さんが登場! 意気揚々としていた子どもたちは顔を引きつらせて、泣き出しました。

先生たちから「豆をまいて鬼を追い払うんだよ」と声を掛けられ、怖さを我慢して豆を投げる子どもたちも。「鬼さんイヤー!」「あっち行つて!」という声上がり、泣き声の大合唱に鬼も驚き、ついには追い払うことに成功しました!

去っていく鬼に泣きながら一生涯懸命バイバイ

する子どもたちに、筆者は思わず微笑んでしまいました。豆まきの後は、子どもたちが協力して豆とボールのお片付け。いつもよりも早く片付けが終わったように感じたのは、鬼さんとの対決が効果的だったのかも?

(済生記者 平川幸子)





2月5日、当施設の恒例行事「節分」の豆まきを入所者フロアで行ないました。

泣く子はいねえか？

〔北海道〕小樽老健はまなす

子どもたちが団結したパワーには勝てず、鬼たちもついにバツタリ。鬼は「皆いい子にしてるんだぞー」と言い残し、去っていきました。
鬼と一緒に皆の心の中の怒りんぼ虫や泣き虫も追い払われ、園内には再び子どもたちの笑顔が帰ってきました。
(済生記者 定 淳志)



当日使う豆は、安全のため紅白玉入れに使う玉を使用。やわらかいはずなのですが、意外にぶつけられると痛いのです。
当日の鬼は黒鬼・青鬼・そしてなぜか「泣く子はいねえか」と叫ぶ赤鬼(なまはげ?)の3匹。入所者の皆さんは、鬼に向かって玉をやさしく当てる人、力を振り絞って思いっきり投げ終る人などさまざま。鬼が疲れて終わりにしたくても、なかなかやめてはくれません。中には、入所者さんの陰に隠れて鬼にぶつけてくるスタッフがいたり会場は大盛り上がり！入所者さんは皆子どもに戻ったかのような笑顔を見せながら楽しいひと

紙で作った豆を投げつけました。また、投げるのが苦手な方も楽しんでもらえる工夫として、カップに豆を装着して引っ張ると命中するような装置を作りました。
参加した32人の入所者さんは「鬼は外、福は内」と掛け声をかけながらも上手に豆をまき、皆さんの笑顔に満足した鬼は、手を振って鬼ヶ島に帰っていきました。
(済生記者 大須賀彩音)

院内保育所ほかかほか園では2月3日に節分会を行ない、39人の子どもが参加しました。
「鬼さん来るのかな」と朝からそわそわしている子どもたち。「豆まき」や「おにのパンツ」を歌いながら、気合を入れていきました。
会場には手作りのお面をかぶり、新聞紙で作ったバツタに大粒豆を入れて集合。「かみなりどん」にまつわる手遊びやパネルシアターを楽しみました。その後、赤鬼と青鬼が現れると、泣き顔になる子もいましたが、豆を投げて果敢に鬼と戦う勇ましい



子の姿も見られました。豆まきの後には福の神が現れ、皆で鬼と仲直りのダンスをしました。頑張った豆まきをした子どもたちは、今年も元気に過ごせそうです。
(院内保育所ほかかほか園 春田かおり)

今年は怖くない？優しい鬼が登場！

〔静岡〕療育センター令和



2月5日に節分の会を行ないました。
巳年生まれの年男・年女の入所者さんから挨拶をもらい、節分の由来や風習を学んだ後は、いよいよ鬼の登場です。
過去にやってきた鬼がとても怖くて「もう怖い鬼が来ませんように」という入所者さんの願いが届いたのか、今年は優しい鬼がやってきて、一緒に豆まきを楽しみました。
豆まきでは、保育活動や療養活動で製作した鬼の顔に、新聞

13人で団結して鬼を撃退

〔北海道〕小樽病院



2月3日、院内保育所などこキッズクラブで節分の豆まきを行ない、園児たち13人が鬼を



てね」とお願いされると、そこへ、ドンドンと激しく戸をたたく音。
子どもたちの表情が一瞬で引きつり、赤鬼と青鬼が現れると、あちこちで悲鳴と泣き声が。それでも先生に励まされ、新聞でできた豆を一生懸命ぶつけ続け

撃退しました。
広間に集まった子どもたちは「おにのパンツ」などを元気よく合唱。先生から「鬼さん来るけど、豆をぶつけて、やっつけ



〔新潟〕なでしこぼかぼか
保育園

皆が健康で元気に
過ごせますように

2月3日、新潟県央基幹病院併設のなでしこぼかぼか保育園で節分の豆まき行事を行ない、園児21人が参加しました。
当日は鬼に扮した職員がパネルシアターによる節分のお話を
行ない、園児たちはその演出に



釘付けに。豆まきの際には園児が鬼のお面をかぶり、力いっぱい「鬼は外！ 福は内！」と豆をまきました。

豆まきの後には福の神が登場。保育園に幸せを運び、さらに園児たちの歌や踊りで会場はより一層にぎやかに。職員たちは園児の元気いっぱいの姿を見ながら「皆が健康で元気に過ごせますように……！」との思いを新たにしました。

〔特養長和園 済生記者 布施優子〕

〔愛媛〕松山乳児保育園
おにはそと、ふくはうち

1月31日、節分の日に先立ち、



うと立ち上がり、一生懸命豆をぶつけ始めました。
皆真剣な表情で、「当たっても割れんがー！」と大興奮。職員が「鼻狙ってください！」とアドバイスを送ると、狙いを定めますが「鼻に当たらんがー！」と悔しそうです。
落ちた豆をまた必死で拾い、何度も鼻を狙います。ようやく

保育園のホールで節分の行事を行ないました。総勢55人の園児たちが参加し、鬼に扮した保育士たちが現れると、新聞紙を丸めて作った豆を投げていました。怖がって逃げる子もいましたが、離れたところから豆を投げたり、皆で「おにはそと、ふくはうち」と歌ったりして楽しみました。
2月3日は行事食。昼食には巻き寿司、おやつには鬼まんじゅう（さつま芋の蒸しパン）を作ってもらい、皆で食べました。その後は各クラスに分かれ、



パネルシアター「たまごがころんあれあれ！」のお話を聞き、「皆が健康で幸せに過ごせますように」という願いが込められた節分の行事を楽しみました。
〔済生記者 宮内亜希子〕

〔岡山〕憩いの丘デイサービスセンター
鼻に当たらんがー！

2月3日、節分の豆まきを利用者さん11人と行ないました。皆さんの前に職員手製の鬼の人形と鬼のくす玉が登場。最初は「鬼は外！福はうち」と楽しく豆をまいていた利用者さんですが、次第にくす玉を割る



割れると、鬼の顔から「福の神」が登場しました。
利用者さんの動きの良さには職員も脱帽。日頃、リハビリに取り組んでいる成果が出た瞬間でした。
〔生活相談員 上田悦子〕

スタッフ手作りの
特大恵方巻ぬいぐるみも

〔福岡〕飯塚嘉穂病院

今年の節分は2月2日でしたが、当院の緩和ケア病棟では3日に節分のイベントを行いました。

行ないました。
当日は赤鬼、青鬼、福の神に扮したスタッフと担当医師が各病室を回り、患者さんやご家族と記念撮影を行ないました。中には突然の訪問に涙を流して喜んでる患者さんもありました。
記念撮影ではスタッフ手作りの特大恵方巻のぬいぐるみも登場！皆が笑顔になれる楽



topics

に開設し、いち早く要援護者を受け入れる体制を整えます。今年には地震発生からの初動対応として、利用者さんと職員の間で確認を行ない、参集した職員で福祉避難所を開設するという流れを確認。夕方からの訓練で、室内の照明を落としポータブルLED照明を使用しましたが、暗い中での作業は不安感も強く、照明の重要性を改めて



練を実施。職員26人が参加し、神戸市職員3人が見学に訪れました。「基幹福祉避難所」とは神戸市独自の福祉避難所で、発災時に指定された市内の特養が自主的に



1月28日、夢が丘スポーツセンターで下関市立夢が丘中学校1年生68人を対象に職業講話が行なわれました。当院からは岡崎咲栄医師と飯野愛友看護師が参加し、医師や

中学生に向け職業講話

〈山口〉豊浦病院

実感しました。2施設同時訓練を初めて実施し、施設間の情報共有や避難所物資の輸送など施設間の連携強化を図る取り組みとなりました(特養ふじの里 管理部長心得 田中敬二)



お菓子を買って福祉支援

〈三重〉松阪総合病院

1月31日、障害者就労支援施

看護師になるまでの道のり、仕事のやりがいなどを話しました。岡崎医師は「可能性は無限大、何でもできる!と言われても、何をしたらいいの?と昔は思っていた」と自身の経験を語り、「おもしろいこと、頑張れることを一生懸命頑張ること」「周りからの刺激で自分の将来の夢が見えるかもしれない」など、学生たちへアドバイスをしました。(済生記者 西田千鶴)

1月18日、夜間を想定したふじの里基幹福祉避難所およびなでしこ神戸福祉避難所の開設訓



原子力災害に備え退避施設稼働訓練

〈鹿児島〉川内病院

2月15日に鹿児島県原子力防災訓練に連動した「屋内退避施設稼働訓練」を行ないました。これは、万が一の原子力災害時に迅速に退避施設を運用するための訓練で、施設の概要や最低限の稼働方法を職員が理解し、習得することが目標です。当日は事務、看護部、コメデイカル部門などから16人が参加。訓練では県の全面緊急事態発令と合わせて施設の稼働を実施しました。参加者は設備の整備経緯や機能について説明を受け、その後、実際に屋内退避施設を稼働しました。



インターンシップ生とクレープ作り挑戦

〈和歌山〉特養潮光園

参加者からは「部署の垣根を越えて全力で訓練に取り組みることができた」と肯定的な声がありました。今後もこうした訓練の定期的な実施を継続し、有事の際に職員一人ひとりが迅速に対応できるような体制を整えることを目指します。(施設用度課 主任補佐 古川 大)

当日はインターンシップ生と介護職員がチームを組み、クレープ作り挑戦。利用者の皆さんも一緒にクレープを作る様子はとても楽しそうでした。完成したクレープは皆で食べ、「とてもおいしいかった」という声が多数寄せられました。浦崎弘之施設長は「当施設では『楽しい介護』をモットーに今後もこのような交流の場を設けることで、インターンシップ生と利用者の皆さんとの絆を深めていきたいと考えています」と話しました。(済生記者 山崎良彦)



2施設同時に夜間訓練

〈兵庫〉特養ふじの里・小規模特養なでしこ神戸

1月18日、夜間を想定したふじの里基幹福祉避難所およびなでしこ神戸福祉避難所の開設訓

設「お菓子工房M」による職員対象の出張販売を実施しました。仕事の合間に購入できる場を設け、クッキーやデザートを購入することでソーシャルインクルージョンを身近に感じてもらいたいという思いから、出張販売をお願いしました。施設の方5人は昼休憩の時間に合わせて手際よく準備し、11時の開店からすぐに売り切れる商品が出るほどの大盛況となりました。約200人の職員が商品を手に取り、3時間でほとんど完売。施設責任者の方も大変喜んでいました。(健診センター 引地 学)

〈静岡〉 特養小鹿なでしこ苑
有事の際に役立つ
段ボールトイレ制作

静岡県立大学短期大学部社会福祉学科社会福祉専攻の「福祉防災」をテーマにしているゼミで、1月17日に段ボールトイレ制作が行なわれ、筆者は西豊田



インクルーシブ防災活動のメンバー2人と一緒に見学させてもらいました。
担当教員の指導のもと、学生4人はYouTubeの動画などを参考に段ボールと格闘。短時間で誰でも簡単にできるもの、少

し工程は多くなるが耐久性が優れたもの、円形でカッター等を使用せず作成でき安定感のあるもの、牛乳パックと段ボールを使用するもの、とそれぞれ特徴のある段ボールトイレ4種類を作り上げました。
インクルーシブ防災活動のメンバーからは「実際に1週間使ってみると臭いも気になるから蓋も必要になるよ」と新たな課題の提案がありました。
(地域相談員 望月亜紀)

〈大阪〉 千里病院
災害拠点病院として
職員向け説明会実施

1月21日、当院の災害拠点病院としての役割・機能や、災害



関係施設について理解を深めるため、災害対策準備室が職員に向けた説明会を開催しました。

当日は18人が参加。まずは災害拠点病院の役割や災害時における当院の体制、DMATやSCU（広域搬送拠点臨時医療施設）についての説明がありました。さらに、災害発生時に本部となる災害対策室、職員と患者さんの備蓄品を保管している各倉庫、DMATの物品保管とミーティングや出動時の後方支援時に使用するDMAT倉庫、SCU物品倉庫の見学も行ないました。
参加した職員たちは普段目に

しない施設や物品を知ること、災害対応の重要性を改めて認識しました。
(済生記者 二階堂潤江)

輪島塗チャリティ販売会
収益を被災地に寄付

静岡済生会総合病院

1月15日、院内で輪島塗チャリティ販売会を開催しました。ボランティアアキヤンプすず運営協議会が行なう「おたからプロジェクト」に賛同した「まちらボ道」のボラン

ティアコーディネーター・中村道代さん（静岡市）が企画し実現。同プロジェクトは、能登半島地震の被災者から輪島塗漆器を譲り受けてチャリティ販売をし、その収益を被災地に寄付する取り組みです。

午前中は来院者向けに外来で、午後は職員を対象に会議室で販売しました。輪島塗が好きな方、実家が被災地の近くの方などたくさんの方が購入してくださり、早々に完売。皆さんの温かい応援の気持ちを感じることができ



企画した中村さんは「被災地支援だけでなく、減災について考えていただく機会となればうれしい」と話しました。
(済生記者 酒井あい)

〈三重〉 松阪総合病院
DMAT訓練で地震に備え

2月1日、中部ブロックDMAT訓練が三重県内で開催され、当院は災害拠点病院として参加しました。職員15人が参加した今回の訓練では病院の本部活動とともに、県外からのDMATを受け入れ、院内にDMAT支援指揮所を設置しました。
「1月30日に東南海地震が発生後3日目」の災害想定であり、病院本部としては病院機能をどのレベルで維持継続するためにどのような情報の収集が必要か、資材などは不足しないかなどを派遣DMATから助言を得ながら対応していきました。

院内では対応困難な傷病者が多数発生し、DMATに広域搬送の調整を依頼しました。実災害を想定した訓練であり、余震による病棟への被害が発生し



たと想定して、病棟の再編などについても再検討することができ、有意義な訓練となりました。
(副院長 近藤昭信)

滋賀県病院
神経外科・岡主任部長が
公衆衛生事業功労者表彰

1月16日、当院脳神経外科主任部長の岡英輝医師が、滋賀県公衆衛生事業功労者として、滋賀県健康づくり財団理事長表彰を受賞しました。

この賞は、地域に密着した公衆衛生事業に長年尽力し、その



成果が特に顕著な人を表彰するものです。岡医師は数々の取り組みを通じて、地域住民の健康増進に多大な貢献をしてくださりました。

今回の受賞にあたり、岡医師は「このような荣誉ある賞をいただき大変光栄です。今後も脳

神経外科の専門性を生かし、地域住民の皆さんが安心して暮らせるよう、質の高い医療を提供していきます。若手医師の育成にも力を入れ、より良い医療体制を築いていく所存です」と述べました。
(済生記者 有馬真由美)

〔福岡〕大牟田病院
済生会リハ研究会で
PT3人が演題発表

11月30日に第7回済生会リハビリテーション研究会が滋賀県で開催され、当院の理学療法士3人が演題発表をしました。
今回のテーマは「多職種で実現するシームレスなリハビリテーション―急性期、回復期、生活期の医療と介護―」。当院は「腎細胞癌術後に胸椎転移を来した患者の一例―社会復帰を目標に機能向上した症例―」と題



し、がんの転移により不全麻痺を呈した患者さんに対して包括的な支援を実施したことを報告しました。
研究会参加を通して、患者さんが自分らしく生きるためには身体機能や動作能力の改善、家屋や職場の環境調査と調整が必須であり、そのためには多職種の連携が必要不可欠であることを再認識しました。
(リハビリテーション部
理学療法士 松尾由香利)

奈良病院

2025年度医療標語決定

常勤・非常勤問わず当院で働く全ての職員から医療標語を募集する活動も今年度で13回目となりました。102作の応募作品から全職員の投票で選ばれたのは「思いこみ その判断がミスを呼ぶ」。小山株式会社清掃担当・丸山澄子さんの作品です。

この標語は2位・3位の作品とともに、2025年度の標語として各部署に掲示され、職員に周知・注意喚起をしていきます。2位は「おかしいと感じた違和感、再確認」(小山株式



会社・森本紀子さん)、3位は「思い込み 1番キケン その自信」(セラピスト・八窪優弥さん)でした。

1月28日に久永倫聖院長から表彰状と商品券が贈られました。普段院長と接することが少ない3人は、少し緊張しながらも笑顔で受け取っていました。医療職のみならず多くの職員に、医療安全に興味を持ってもらえていることをうれしく思います。
(副看護部長兼医療安全管理室 長澤忠子)

〔石川〕金沢病院
次世代のリーダーになる

12月26日、人材育成推進室が主催で「みんなで考えるリーダーシップとフォロワーシップ」と題した研修を行いました。この研修は院内のリーダークラスのスタッフ24人を対象に、次世代の管理者育成を目的に開催



されました。
まずはリーダーシップ・フォロワーシップに関する講義を実施。フォロワーシップという言葉を知ったことがない参加者もいましたが、講義をもとにグル

〔山口〕豊浦病院
採用ホームページを
リニューアル

昨年12月末、採用強化を目的に病院の採用ホームページをリニューアルしました。

皆さんにより快適に分かりやすくご覧いただけるよう、デザインを刷新。多職種が協働して



(済生記者 浅野幸恵)

ープで理想のリーダーシップ・フォロワーシップの姿などを話し合いました。最後は自分心がけて実践していきたいことについて宣言。参加者は研修後に研修内容を部署長と共有しました。

参加者の「役割意識を持ち、学んだことや気づいたことを実践していきたい」との声からは意気込みが感じられました。



内容の見直しと整理を行ないました。実際に当院で働くスタッフのインタビューや働く環境、教育プログラム等を掲載していきます。
インタビューでは子育てと両立しながら当院で働く夫婦、未経験で入職し資格取得を目指しながら働く10代看護助手、自動車整備士から看護師になり現在特定行為研修受講中の男性職員など、具体的なエピソードを多数掲載しています。
求職者の皆さんに当院の親しみやすい雰囲気や伝えたいと思います。皆さんもぜひご覧ください。
(済生記者 西田千鶴)

〔三重〕介護老人福祉施設
明和苑
新成人を祝う記念の書

当苑に11月に入職した新人職員の田中留奈さんが、新成人としての節目を迎えました。

辻井夕美子施設長から法人を代表して贈られた記念の書には「新成人おめでとうございませう」というシンプルながらも心温まるメッセージが添えられ、田中さんへの祝福が感じられます。この新成人としての新たな



スタートを祝うことができるのは、非常に素晴らしいことです。大人への一歩を踏み出す田中さんには、これから楽しいことや大変なことが待っていることでしょうか。ぜひ良い介護士として成長してほしいと思います。

新人職員にとっても、法人からこのように祝福されることは大きな励みとなるでしょう。田中さんの今後の活躍を心より期待しています。
(介護福祉士 課長 森田 忍)

topics



災にはハード（設備）とソフト（職員）の両面での備えが必要で、被害を最小限に抑えるためには初動が重要。訓練の成果や気づきを職員間で共有してほしい」との講評がありました。また、災害時に迅速に動ける

準備が復旧を早めるとのお話もあり、職員一同、防災意識をより一層強める必要性を感じました。

（経営企画課 鎌田 裕）

〈福岡〉飯塚嘉穂病院 大量の落ち葉で腐葉土作り

病院サービス室職員4人で、大量の落ち葉を資源として活用

本番に備えた “模擬” 適時調査

〈大阪〉中津病院

1月29・30日、当院で済生会の医療政策・医事研究部会メンバーによる“模擬”適時調査を受けました。初日は午後から院内ラウンドで施設基

準に関する掲示物を確認し、2日目は午前から夕方にかけて、4テーブルに分かれて「入院基本料（7基準）」「入院料等加算（特定入院料）」「特掲診療料」の届け出に対して書類等の確認が行なわれました。



句ころには地元農協の精米センターから醗酵もみ殻や米ぬかを軽トラ1杯分を分けてもらい、混ぜ込んでいます。たい肥になるには半年から1年ほどかかるということで、根気強い作業が続きます。

2023年にクラウドファンディングにより緩和ケアガーデンの改修工事を行ない、ご支援のおかげで庭の木々や草花をリニューアルすることができました。これらをいつまでもきれいに維持していくために、腐葉土が一役買ってくれることを期待しています。

（参事 久良知範幸）



からは指摘事項だけでなく改善案等の助言もあり、いろいろな相談にも乗っていただき情報交換もできました。また、看護部門やメディカル部門からの協力のもと、多くのスタッフに対応いただき、当院にとって非常によい経験となりました。

（経営管理課長 永家清弘）



真ん中が「しんちゃん」、向かって左が筆者、向かって右が京都フォント運営ベンダーの方

京都ふおんとを用いた100周年ロゴ

京都済生会病院

2029年7月の当院開設100周年に向けて「100周年ロゴ」を作成しました。ロゴは経営企画課企画広報室が主導し、障害があるアーティスト・福祉施設とデザイナーによる共創アートワーク「京都ふおんと」を活用して作成。昨年10月に職員投票を行ない、11月27日にロゴが決定しました。

EMO（アトリエウー）に所属しているアーティスト・新村さん（しんちゃん）のフォントと作品を使用しています。二つの0をチョウに見立て、春の訪れを告げ、喜びや良い知らせを運ぶチョウが100周年に花を添えます。花から花へ舞う姿を、地域に寄り添う病院に重ねています。

加を断念せざるを得なかった人もオンラインで参加。ハイブリッド形式での開催はさまざまな点で有益でした。SLSGの活動は済生会ホームページにも掲載されています。「今後も全国に展開する病院グループの強みを生かし、共同研究を進めていこう」と皆で決意を新たにした新年早々の会合でした。

（岡山済生会総合病院 肝臓病センター 川上万里）

全国済生会肝臓共同研究グループ

研究内容の進捗報告

今年度1回目の全国済生会肝臓共同研究グループ（SLSG）幹事会を1月12日に新大阪のホテルで開催しました。

当日はハイブリッド形式により現地5人・オンライン6人の計11人が参加。主に現在進行中の研究内容の進捗状況報告と質疑が行なわれ、活発に意見が交



わされました。

消防訓練で対応力を磨く

〈埼玉〉川口総合病院

今年度の消防訓練を昨年12月13日に実施しました。当日は曇り空で冷え込みが厳しい中、各部署から数人ずつ参加し、合計約50人が緊張感を持って訓練に臨みました。

訓練は4B病棟からの出火を想定。川口市消防局南消防署横曽根分署の職員立ち合いのもと、初期消火訓練、119番通報訓練、避難階段を使用した避難訓練、はしご車による避難訓練、煙中ハウス体験、水消火器訓練を行ないました。

終了後、消防署職員から「防

〈石川〉 ことも園アイリス
親子で陶芸を楽しむ参観日



1月17日の年長クラスの保育参観では、陶芸教室「北陶」から講師2人を招き、15組の親子が粘土で茶碗作りの体験をしました。

陶芸をするのは初めてという親子が多く、子どもたちだけでなく保護者の方も講師に真剣に作り方を聞いていました。

まず土をこねて穴を開け、指

を入れながら広げていきます。「冷たくて気持ちいいね」「つるつるして丸くなってきた」「これでお茶飲めるかな」と土粘土の感触を親子で楽しみながら作陶していました。少しずつ茶碗の形になると、皆テーブルに並べた茶碗をうれしそうに眺め、焼き上がりを楽しみにしているようでした。

3月には当園近隣の茶道教授宅を訪問し、自作茶碗で一服を味わう卒園茶会を



行なう予定です。

（済生記者 田中 静）

〈大阪〉 中津病院

くらし支え愛、活動
食料品など計97点寄贈

当院では3年前から職員に未使用や使用回数のない日用品、賞味期限が3カ月ほど残っているレトルト食品の提供を呼びかけ、生活困窮者の支援団体に寄贈する「くらし支え愛、活動」を年末に行なっています。

今年度も11月18日～12月20日の約1カ月間募集を実施。医療従事者ならではの介護食のレトルトパックなどの食料品、衣類や歯ブラシセットなどの日用品合わせて97個の物品提供があり

「今年も募集しますか？」と募集前からMSWに聞かれるなど、この活動が院内で認識されてきていることを実感しました。今回は提供品のうち衣類がすべて女性物だったため、連携しているビッグイシュー基金に相談の上、DV被害者やシングルマザーを支援する女性支援団体に寄贈しました。

（生活福祉相談室課長 MSW 富士川浩子）



ました。

〈山形〉 養護（盲）老人ホーム

山静寿

いろいろな味を楽しめた

2月12日、当施設の食堂でデ

「キ作りを楽しむことができませんでした。参加した皆さんからは「いろいろな味が楽しめて良かった」「自分で作ったのは初めて」という感想がありました。」

（済生記者 丹 秀樹）

〈富山〉 幼保連携型認定こども園
なでしこ保育園

成長を感じるカルタ大会

1月16日、当園の遊戯室で3歳以上の子ども77人が年少児・年中児・年長児の各年齢のグループに分かれ、カルタ大会を実施しました。

保育園での練習では札が取れない悔しさや、少しずつ札が取



れるようになる喜びを感じながら、友だちと競い合って一生懸命取り組みました。年末年始の休み中も家庭で保護者の方と何度も練習して本番に臨みました。本番では緊張した表情の子どもたちでしたが、最初の読み札が読まれると真剣な表情に変わり、元気な声で「はいっ！」と言いながら素早く札を取る姿が見られました。

各グループの優勝者には折り紙で作ったメダルが授与されました。終了後は「14枚取れたよ！」「頑張った！」と友だちと話している姿や、保育者や保護者に報告し共に喜び合う姿もありました。

（済生記者 宮本亜美）

〈岩手〉 北上済生会病院

第2回市民公開講座に
定員超の112人

2月1日、当院大会議室で「リウマチ・膠原病」をテーマに市民公開講座を開催しました。当日は定員を上回る112人が参加。患者さんやご家族、市民の皆さんの関心の高さがうかがえました。

はじめに岩手医科大学リウマ



チ・膠原病・アレルギー内科の駒ヶ嶺正嗣特任講師がリウマチの基礎知識について講演し、続いて同大学同科の仲哲治教授がリウマチの最新の診断や治療などについて講演しました。

先生方は具体例を挙げながら「リウマチは早期に治療を開始することで、症状が消えるところまで治療が進んでいる」と語り、早期診断・早期治療の重要性を強調しました。

参加者からは「診断や治療の現状が分かり良かった」「現在気になっている症状について解決のヒントになった」など多くの感想が寄せられました。

（済生記者 掛川千恵子）



コレーションケーキ作りを行ないました。当日は40人の入居者さんが参加。バレンタインが近かったので、ケーキ作りをしながらその雰囲気を楽しんでいたかったです。

職員が用意したロールケーキに、入居者さんが生クリーム、チョコクリーム、マシュマロ、ポッキーをトッピング。ロール

ケーキは栗、紅芋、チョコの3種類を用意しました。この日が誕生日だった入居者さんにとっては、作ったケーキがバースデーケーキ代わりになりました。童謡などのBGMを流しながら、和やかな雰囲気でケ

2回目の外国人NA研修 感染対策とBLSを学ぶ

〈東京〉中央病院

1月14日に外国人NA（ナーシングアシスタント）を対象とした研修を実施しました。2回目となる今回は、他病院の外国人NA3人も含め10人が参加。感染対策と一次救命処置（BLS）について、感染制御センターの山根絵里看護部長と渡邊明美係長、救急診療科の入野志保医師が分



かりやすくやさしい日本語を用いて説明しました。参加者は実践を交えながら、手指消毒の基本やマスク・エプロンの正しい着用方法、AEDの使用方法を学びました。

研修の後半は場所を移して茶話会を開催。和やかな雰囲気の中、出身国の文化や言葉の違いによって困ったことなどを共有していました。

当院には現在12人の外国籍NAが勤務しています。東京という外国人の多い土地柄もあり、今後の外国人NAの活躍が期待されます。

（済生記者 鈴木香純）



わいました。当院スタッフが作った瓢箪ランプの展示、地元のパンドや和太鼓の演奏のほか、飲食ブースや子ども遊びスペースも設けられ、家族連れや地域住民で楽しめる一日となりました。

〈茨城〉神栖済生会病院 震度6強の地震と大津波 いざというときに備える

大規模災害対応訓練を1月22日に実施し、医師や幹部をはじめ約50人の職員が参加しました。神栖市が震度6強の地震と大津波に襲われたという想定で、災害対策委員長の藤井猛雄医師が地域の被害について説明した後、金沢義一院長が災害対策本部の設置を宣言。職員がタイムラインに沿って院内の被害や備蓄品等の情報を各部門長へ報告します。金沢院長は刻々と変化



する状況の中、集まった情報をもとに追加の確認を行ない、指示を出していました。開始から約1時間後、この後は籠城対応となる方針が金沢院長から示され、訓練は終了しました。参加者からは「いざというときに備えて、非常時の病院の動きが理解できてよかった」という感想が寄せられ、大変有意義な訓練となりました。

（済生記者 江口裕紀）

〈茨城〉常陸大宮済生会病院 5年ぶりの病院まつりで 地域の方々と楽しく交流

コロナ禍を経て5年ぶりに「第5回病院まつり」を11月16日に開催しました。

今回は「広げよう、笑顔でつなぐ地域との輪」がテーマ。さまざまな体験ブースを設け、子どもたちは医師や看護師のアドバイスを受けながら、腹腔鏡模擬手術や模型を使った内視鏡操作を行ない、医療への興味を深めました。

また、常陸大宮市消防本部の協力により消防車や救急車の試乗体験も行なわれ、大いににぎ

1階外来に増床・移設することになりました。

参加したスタッフからは「地域の方々と交流ができて良かった」との感想が多数ありました。

（済生記者 笠井康宏）



化学療法室を1階外来に移設したことで、隣接する救急外来や外来診察中の医師がすぐ駆けつけることができる環境を整え、患者さんの安全を第一に考えた設計となっています。また、外来化学療法室内に薬剤のミキシングルームを設置するなど、スタッフの動線や作業スペースも改善されました。

（済生記者 久富大史）

〈福岡〉二日市病院 外来化学療法室を刷新

患者さんにより安全で快適な環境で化学療法を提供できるように、1月に外来化学療法室をリニューアルしました。

以前は6階西病棟と1階外来の一部を使用し、8床で運用していました。化学療法症例数がこの3年で倍近く増加。治療スペースの確保が必要となり、



南日本新聞
2025年1月
22日付の「かお」
コーナーに看護
師の小林香織さ
んが取り上げら
れました。
当院DMAT
(災害派遣医療
チーム) 隊員で
もある小林さん



原子力災害医療の普及に励む

〈鹿児島〉川内病院

は、災害看護の学びを深める中で「原子力災害拠点病院の指定を受けている当院での役割を果たすために、放射線医療・看護



の活躍が地域貢献に直接つながるこの取り組みに感動していま

した。
(済生記者 掛川千恵子)

滋賀県病院
ドクターヘリ基地病院
交流・連絡会を開催

12月20日、当院で第6回関西広域連合ドクターヘリ基地病院交流・連絡会を開催しました。毎年、関西広域連合管内のドクターヘリ基地病院で持ち回り開催されており、今回は当院が会場となりました。

当日は当院を含むドクターヘリ基地病院8病院が参加。プレホスピタル活動における医療資材・薬剤の選定理由についての事例発表や意見交換を行ないました。

当院救急集中治療科の越後整医師は「限られた時間やスペースの中で、いかに効率的に必要な医療資材をそろえるかが大きな課題。今回の交流会で他病院の取り組みや工夫を知ることができた」と述べました。
(済生記者 有馬真由美)

山口総合病院
AHABLSコース開催
8人が意欲的に学習

1月25日に当院で日本循環

器学会国際トレーニングセンター(JCS-IITC)によるAHABLSコースを開催しました。当日は8人が受講。筆者は同会中国支部のコースディレクターとしており、院外からもインストラクターを集めました。

コース内容は、一次救命処置として質の高い胸骨圧迫や人工呼吸、AEDの使用方法、窒息への対応などです。今回は院内でのBLSインストラクターを目指す受講生もいて、意欲的に学習していました。

JCS-IITCのBLSコースはオンライン学習が可能のため、集合教育となるスキルパ



ートは3時間程度で学ぶことができます。受講しやすい環境になってきたので、興味がある方はぜひ近隣のJCS-IITCコースにご参加ください。
(JCS-IITC BLSコース ディレクター 湯面真吾)

〈岩手〉北上済生会病院
楽天イーグルス仕様の
車椅子寄贈

2月7日、東北楽天ゴールデンイーグルスから特製の車椅子を寄贈いただきました。
楽天イーグルスの選手がホームゲームでホームランを記録した試合数と同じ数の車椅子を東北6県の医療・福祉施設に寄贈する「イーグルスホームランチャリティー supported by S M B C 日興証券」の活動の一環です。昨シーズンはホームゲーム65試合中22試合でホームランが記録され、そのうち1台が当院に贈られました。
車椅子の背もたれやホイールはイーグルスカラーで、チームロゴが施された特別仕様。当院には楽天イーグルスの熱狂的なファンも多く、皆「かっこいい」と目を輝かせ、選手たち

についてさらに学びたい」と考え、長崎大学大学院災害・被災医療科学共同専攻保健看護学コース修士課程を修了しました。原子力発電所のある地域の看護師として、身につけた専門的知識を生かし、災害時のみならず日常生活の中でも知識と技術の普及に努めています。災害医療の柱として今後も活躍を期待します。
(済生記者 石原小百合)

香川県済生会病院
「推し事」発見！
地元高校生が病院訪問

高松市主催の「推し事発見ワークショップ」の一環で、1月23日に高校生2人が来院。若林久男院長が取材を受けました。
この取り組みは、高校生が地元企業の訪問を通して自身の将来像を探るというプログラムで、取材内容をもとに小中学生向け



の動画を作成します。今回、地元高校生たちから当院を取材先に選んでいただきました。
取材は院長室で行なわれ、高校生2人は新型コロナウイルス流行による医療体制の変化や働く上での困難さについて、若林院長に熱心に質問していました。
若林院長は医療現場の厳しさを真剣に伝えつつも「職員が優しいところ」が当院の良さ。それが患者さんのために働く力となる」と語りました。高校生からは「済生会の取り組みを動画で紹介し、一人でも多くの方々に広めていけるよう努めます」との声が寄せられました。
(済生記者 長尾美甫)

〈埼玉〉加須病院
内科学会関東地方会で
奨励賞と指導医賞を受賞

12月14日に行なわれた第701回日本内科学会関東地方会で、研修医1年目の清水康太郎医師が奨励賞を、消化器内科の成富琢磨医師が指導医賞を受賞しました。

清水医師は「5-ASA内服のみでUC寛解維持中にCMV初感染の腸炎を併発した1例」と題し、ステロイドなどの免疫抑制下でない潰瘍性大



腸炎寛解維持中の患者さんに初感染のサイトメガロウイルス腸炎を合併するという稀な症例を報告しました。

清水医師は「研究・発表を通じて多くの学びを得たのみならず、自分自身も成長することができました」と受賞の喜びを口にし、成富医師は「受賞は本人の自信にもつながったと思います。私としても大変喜ばしいことです。これからも未来を担う医療人の育成に力を入れていきます」とコメントしました。

（済生記者 蓬田絵里子）

岡山済生会総合病院
高齢者向け講座で
地域との交流深める

12月19日、岡山市旭公民館が主催する高齢者を対象とした「旭ゆうゆう大学」のプログラムで当院中央検査科の浮田実診療顧問が講演を行ない、35人が参加しました。

テーマは「地球温暖化の原因や現状の対策、さらに温暖化の進行が人体に及ぼす影響」。特に高齢者が注意すべきポイントとして、脱水や、今後日本で増加が予想される感染症の種類と



その予防方法について詳しく解説しました。

アンケート結果では「よく理解できた」との声が多く寄せられ、大変好評でした。また、開催場所が当院の近隣地域ということもあり、多くの参加者が当院受診経験があると回答。「済生会には昔から家族ぐるみでお世話になっています」といった温かい言葉を多数いただきました。

（済生記者 高畑貴子）



した。笑顔と笑い声に包まれた新春のひとつときは、きつと皆さんの心に温かな思い出として刻まれた。

〈山形〉特養やまのべ荘
小正月を彩る団子木作り

1月15日と22日に、新年を彩る恒例の伝統行事「団子木作り」を行ないました。山形では小正月の餅花飾りを「団子木」と呼んでいいます。

15日には従来型特養の入居者さん33人、22日には地域密着型特養の入居者さん15人が参加。今年も職員と一緒に、四季のご利益を願い、ミズキの木の枝に団子を丸めて刺していきます。

団子木が出来上がると、新しい年を迎える雰囲気が一層盛り上がり、参加者たちはその手作



りの団子木を見つめて「正月らしくなったなあ」「今年もうまくできたな」と満足げに語り合っていました。こうした取り組みを通じて地域の伝統文化を引き継ぎ、入居者の皆さんに健康で安全に、そして楽しい生活を送っていただきたいと願っています。

（済生記者 岩田恭寛）

〈福井〉特養聖和園
金杯で乾杯！

1月6〜8日の3日間、当園デイサービスホールで新年会を開催しました。利用者さん延べ100人が参加し、華やかな雰囲気の中で新しい一年の幕開けを祝いました。



追別小夜子園長の挨拶から始まり、金杯による乾杯では皆さんの笑顔が輝き、続く特製ミニおせちには「おいしいね」の声が弾けました。職員の踊りや太鼓の迫力ある演目に拍手が鳴りやまず、福笑いやおみくじでにぎやかなお正月気分を満喫しま

〔東京〕中央病院
駒大生が卒業生を取材

1月15日、駒澤大学の学生が来院し、同大卒業生の診療放射線技師・奥村真司さんにインタビューを行ないました。この企画は株式会社ベースキアによる「ガクチカBOOKPROJECT」の一環で、卒業生の活躍を紹介する病院広報メディアを100%学生の力で制作するというものです。インタビューは初々しい名刺交換からスタート。学生2人は奥村さんの普段の業務や、DMATとして出動した能登半島地震の被災地での経験につ



いて取材しました。奥村さんの実際の学生時代の過ごし方や学びの経験についての話は、学生たちへの貴重なアドバイスとなったようです。その後、プロのカメラマンとともに写真の構図を考えながら放射線室やCT室など複数のカットを撮影しました。

完成した冊子は、駒澤大学の学生や高校などへ配布される予定です。

（済生記者 鈴木香純）

岡山済生会総合病院
もしも乳がんになったら？

2月1日、当院さいゆうホールで「もしも乳がんになったら？～あなたの不安、伝わっていますか～」をテーマに、第37回市民健康セミナーを開催しました。

はじめに、元木崇之副院長（乳腺外科）が乳がんの多様性や分類ごとの治療法について丁寧に解説しました。続いて、がん相談支援センターの岡本直美看護師が、定期的な検診の重要性やピアランスケアについて紹介。センターでは治療や療養生活に関する悩みに対応していること



を伝えました。最後に、医療福祉課の太田綾MSWが、高額療養費制度や無料低額診療事業について、スライドを用いて分かりやすく説明しました。

セミナーには60人が参加し「治療法だけでなく、制度やサポートについて知ることができて良かった」との声が寄せられました。

（済生記者 高畑貴子）

〔北海道〕小樽病院
セミナーでヘルニア解説
受診につながった人も

1月19日、当院の地域共生健康セミナー「意外と多い『鼠径



発症原因から症状、治療法までを詳しく解説。参加者からはどうすれば発症しないのか？「手術後に出っ張りはなくなるのか？」など、活発な質疑応答が繰り広げられました。

地方新聞で開催が紹介されたこともあり、参加者は19人に。

うち1人が翌日外科を受診し、無事手術につながりました。2月23日には認知症、3月30日には緩和ケアをテーマに開催します。

（広報室長 松尾寛志）

心温まるこいのぼりの寄付
〔栃木〕宇都宮乳児院

宇都宮クラーク高等学院の生徒6人が1月17日に来院し、同校文化祭のレモネードスタンドの収益金で購入したこいのぼりと粉ミルクを寄贈してくれました。

室内用のこいのぼりは子どもの背丈ほどのもので、もともと季節の写真撮影用に、当院が希望する支援品リストに掲載していたものです。

荻津守院長が「当院では一般家庭と同様、節目節目に子どもたちの成長の記録として写真を撮る。このこいのぼりの前で写真もきつと子どもにとって大切な一枚になると思う」と感謝の意を伝えると、生徒も「子どもたちが笑顔になってくれたら



うれしい。自分たちの活動で地域に貢献できてよかった」と答えていました。この贈呈式の様子は1月20日発行の地元紙・下野新聞でも取り上げられました。

（済生記者 大久保彰子）

〔岡山〕老健備中荘
生地を踏んでリハビリ

2024年の大晦日、入所・通所リハビリテーションの利用者さん60人と職員と一緒に「手打ち年越しうどん」を楽しみました。

利用者の皆さんはうどんの生地をこねる、踏む、切るという一連の作業を通じてリハビリをしました。特に、ビニールに包まれた生地を踏む作業は、すべりやすさがバランス感覚と平衡



感覚を鍛える良い運動になり、汗ばむほどの効果が。また、うどんを切る作業は一定の太さを保つための集中力と、脳と手先の協調性が求められます。

皆さんからは「手打ちうどんを大変楽しめた」「いい運動になった」といった声が寄せられ、職員も「一緒に作る楽しさと達成感を感じた」と充実した時間を振り返りました。

（事務 柏野恵里）



topics



から階段を上りました。神前で手を合わせて昨年の感謝を伝え、今年一年、良い年になりますよ

うにと参拝しました。

帰りに皆さんで焚火を囲いながら談笑し、冷えた身体の寒さもやわらぎました。久しぶりに有間神社に行った方や今回の参拝で初めて行った方もいましたが、皆さん笑顔で喜んでいました。

(看護小規模多機能居宅介護
なでしこ神戸 複合課 副主任
兵頭達也)



12月14日に生活発表会を開催し、園児64人が参加しました。発表会は2部構成で、第一部は1歳児が「忍者」や「山の音楽家」になってのごっこ遊び。第二部は2歳児の表現あそび、幼児(年少・年中・年長)組の手話の歌や劇「白雪姫」、フラダンスと盛りだくさんでした。

〔栃木〕うつのみやなでしこ
生活発表会でフラダンス
保育園



特にフラダンスでは、年中・年長児がフラの衣装を身に付け「アロハ・エ・コモ・マイ」の曲に合わせて踊ると、会場が常夏のハワイの雰囲気。フラのステップやハンドモーションに意味があることを知り、友だちと練習に取り組んだ成果を堂々と笑顔で披露することができました。

保護者の方々には、子どもたちの成長を感じていただける機会となりました。

(保育施設事務 堀川友紀子)

和歌山病院

笑顔のクリスマスイベント

12月13日、回復期リハ病棟入院患者さんを対象にリハビリテーション科主催のクリスマスイベントを開催しました。



短い時間ではありましたが、参加した20人の患者さんのたくさんの笑顔が見られ、楽しい時間を過ごすことができました。

(済生記者 松元靖寿)

〔大阪〕泉尾特養第二大正園 獅子舞が頭をかぶっ



1月14日、新春演芸大会を3階と4階の各フロアで開催し、

利用者さん93人と職員23人が参加しました。

まず初めに福笑いを実施。目隠しをした利用者さんが職員から渡された顔のパーツを置いていき、完成したものを皆に披露しました。すると思いがけない面白い顔になっており、フロアが温かい雰囲気になりました。続いて職員が手作りした獅子舞が登場すると、さらに盛り上がりました。今年一年の無病息災を願い、獅子舞が舞いながら利用者さんの頭を噛むと、皆笑顔になりました。

新年の幕開けにふさわしい、楽しくにぎやかな一日となりました。

(済生記者 黒木洋輔)



〔広島〕老健はまな荘 催し盛りだくさんの三が日

療養棟では多くの利用者さんに楽しんでもらうため、今年の正月三が日は毎日レクリエーションを実施しました。

元旦は初詣。今年のはまな神社沿本社は、コロナ禍前同様に利用者さんご家族やデイケアの利用者さんも参拝できるように4階エレベータホールに移設されました。

2日は、4階では羽子板大会を行ない、負けた職員は顔にたくさんの炭を塗られていました。5階では利用者さんの疫病を追いかつための獅子舞が登場しました。

3日は絵馬作り。皆さん「病気が早くよくなりますように」



〔兵庫〕小規模特養なでしこ 良い一年になりますように

1月8日、神戸市北区の有間神社へ初詣に行ってきました。利用者さん6人と職員3人が参加しました。

手水舎で手、口を清め、鳥居の前で皆で一礼。職員は利用者さんと手をつなぎ、声を掛けな

まずは、2チームに分かれてグループ対抗の風船バレーのレクリエーションを参加者全員で行ない、床に風船が落ちないように打ち返すことができた回数を競いました。

その後、理学療法士の足羽里紗さんがエレクトーン、同じく理学療法士の東智加さんがギターを担当し、患者さんと一緒に「きよしこの夜」「雪」の2曲を演奏。スタッフ・参加された皆さんで合唱しました。

滋賀県病院

小児科・婦人科棟で
心温まるクリスマス会



12月25日、小児科・婦人科棟で恒例のクリスマス会を開催しました。クリスマスシーズンに入院中の患者さんたちに少しでも温かいひとときを過ごしていただくとうと、長年にわたりこのイベントを続けています。サンタやトナカイなどの衣装を着た研修医や看護師が、子どもたちや産後ケア中のお母さんたち、32人の方々の病室を訪問。子どもたちは目を輝かせてお母さんたちは笑顔で迎えてくれました。

人気の絵本シリーズや、出産後のケアグッズをプレゼントすると、「ありがとう」「とってもうれしい」と温かい言葉が返ってきました。

皆さんに季節を感じていただき、少しでも心が安らぐ時間になったのではないかと思います。「こんなに喜んでくれるとは思っておらず、こちらもとてもうれしい気持ちになりました」と、職員喜びにもつながっています。

(済生記者 有馬真由美)

香川県済生会病院

職員と高校生で奏でる
クリスマスコンサート

12月20日に毎年恒例のクリスマスコンサートを開催しました。今回は当院1階総合受付前で行なわれ、外来・入院患者の皆さん約30人がクリスマス音楽を楽しみました。

当日は、患者サービス委員会のメンバーがハンドベルで「ジングルベル」や「きよしこの夜」などを演奏。また、高松桜井高校合唱部の皆さんが「もうびとこぞりて」や最近のクリスマスソングの合唱を披露しました。それぞれが心を込めて演奏し、病院内にはあたたかなクリスマスの音色が響き渡りました。今回のイベントを通じて、患者の皆さんにもクリスマスを楽しんでほしいです。

(済生記者 長尾美甫)



しんでもらうことができたと思っています。

福井県済生会病院

サンタさん来たね

12月24日に院内保育所ほか園でクリスマス会を開催し、園児38人が参加しました。

「あわてんぼうのサンタクロース」のパネルシアターを見たり、クリスマスにちなんだ手遊びを

のプレゼントは、少し恥ずかしがりながらも「ありがとう」とお礼が言えました。最後はサンタさんやトナカイさんとハイタッチして、笑顔で見送りました。その後、数日が経っても思い出しては「サンタさん来たね」と口にする子どもたちでした。(ぼっかばか園 中村裕美子)



していると、シャンシャンシャンと鈴の音が。音の鳴る方を振り向くと、サンタクロースとトナカイが登場。少し緊張している子どもたちでしたが、サンタさんに質問したり、かわいい踊りを披露したりするうちに、皆に笑顔が生まれました。お待ちかねのサンタさんから



〈広島〉老健はまな荘
今年は若いサンタが登場
ケーキ作り体験も好評

12月25日、毎年恒例のクリスマス会を開催しました。いつもは4階と5階で別日だったのが、今回は同日開催。となるとサンタクロースはどうするのかと心配しましたが、そこはレク担当職員が機転を利かせ4階は隅井浩治前施設長に、5階は小林博文現施設長にそれぞれお願いしていました。

しかし当日、小林施設長は外来診療が長引き時間に来られず、急遽、平藪大輔介護主任が代役で。若いサンタは動きが俊敏で、



診療を終え食事を取らずに参加した探求心旺盛な小林施設長にとつてよい参考になったと思います。

(済生記者 佐藤 聡)

〈滋賀〉守山市民病院

ハンドベルの音色で
クリスマス気分

12月25日、当院正面ロビーで恒例のクリスマスコンサートを開催しました。

今回は、守山市内で活動している「ハンドベル野いちご」の皆さんをお招きしました。おそろいの衣装とサンタ帽がチャリミングな10人のメンバーがハンドベルやトーンチャイムで「ふるさと」「大きな古時計」「月の砂漠」といった童謡や、定番のクリスマスソング、「琵琶湖湖航の歌」など全10曲を演奏しました。



ベルの明るく澄んだ音はクリスマスにぴったり。集まった30人ほどの患者さんは曲に合わせて体を揺らしたり、歌詞を口ずさんだりと楽しい時間を過ごしました。また、音楽はロビーから離れた内科や小児科まで届き、多くの患者さんや職員にもクリスマス気分を味わってもらったことができました。

(済生記者 中嶋元香)

新潟病院
新潟のお盆を感じる
給食レシビを投稿し入賞



ヤクルト「たのしい給食レシビ投稿キャンペーン」笑顔になる給食レシビ（応募期間2024年7月1日～9月30日）に当院栄養科が考案したレシビを応募し、12月6日に入賞が決定しました。
新潟ならではの給食の季節

を感じられるよう、彩り良く仕上げた押し寿司に、名産品の枝豆とナスの副菜を添えた、さっぱりとした夏献立。押し寿司は、調理師と試作を重ね完成させた新メニューです。

入賞した給食は、昨年8月13日のお盆の行事食として実際に入院患者さんへ提供。「とてもおいしかった。今までの中で一番。サイコー」といううれしいメッセージもいただきました。詳しい作り方や栄養量などは、1月16日からヤクルト公式サイトで公開中です。

和歌山病院
他部署の人と交流し
病院の一体感が高まる

12月26日、和歌山市にある夕



イワロイネットホテルで職員互助会忘年会を開催しました。昨年を上回る131人（互助会員数309人）もの参加があり、職員で楽しい時間を過ごすことができました。

川上守院長の挨拶に始まり、新入職員の紹介や職員表彰などが行なわれました。またビンゴ大会では豪華景品もたくさん用意されました。
今回は、普段仕事を通じてしか交流のない職員同士が交流を持ち、より一体感を感じられるような時間を過ごすことを目的とし、席順は開催日当日に全職員くじ引きで決めました。
参加者からは「他部署の人と交流できてよかった」といった声が寄せられ、イベントを通じて職員同士の絆を深めることができました。

（松養科 杉山かえで）



大雑報

身の回りで起きた、さまざまなことを楽しく報告するコーナーです。職場の話でも、家庭の話でも、休日の話でも。ご報告ください。

看護師さんの冷たい対応が
きっかけで……

穏やかな笑顔とほんわかした雰囲気
が印象的な栗原麻奈美さんは、整

形外科病棟に配属されて4年目を迎える看護師です。
看護師を志したきっかけは、お父

さまが脳出血で入院した際の経験と

「たっぶりの睡眠とストレスをため
ないこと。焼肉とお酒がストレス解

消」と笑顔で教えてくれました。

（埼玉・川口総合病院 済生記者
原 衣里奈）

★骨折して入院が必要になったら川
口総合病院に行きます。さすがに焼

肉とお酒は出ないかな？
（本部広報課 河内淳史）

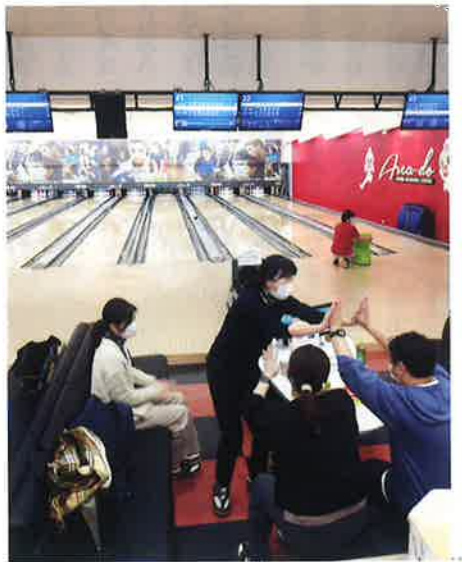


栗原さん(右)

久しぶりのボウリング

〈兵庫〉特養ふじの里・小規模特養なでしこ神戸互助会の主催で、11月29日にボウリング大会を開催しまし

た。
コロナ禍以降、実に5年ぶりのイベントには46人が参加。当日は団体戦と個人戦で競い合いました。2ゲームを行ない、女性には20点



（兵庫）特養ふじの里
事務課長代理 前田 京
★もし松永さんがベストコンディ
ションだったとしたら……。次回の
結果をお待ちしております。
（本部広報課 河内淳史）

二人目の100歳さん！

昨年100歳のお誕生日を迎え
た方に加え、1月2日にもう一人
100歳になった方がいて、1月22
日はそのお祝いをしました。

お祝いのデザートは「さつまいも
のモンブラン」。午前中、通所利用者



さん2人に作るのを手伝ってもらい
ました。市販のシフォンケーキにク
リームをのせて、さつまいもクリー
ムを絞ってのせて、ちよっと飾りを
付けて出来上がり！

午後からの誕生会には、利用者さ
ん21人が参加。皆にお祝いのケーキ
を提供し、おいしそうに食べてくれ
ていました。

これで当施設には100歳の方
が2人に。共通しているのは何でも

期のスピード感に苦戦したそうです
が、今では「自分で考えてできるこ
とが増え、仕事が楽しい」と笑顔で
話します。

また、栗原さんは驚くことに、高
校時代から今まで一度も病気で休ん
だことがないそうで、その秘訣は



一生懸命な
ところ。計
算問題も体
操もいつも
ちやうんと
参加してい
ます。これ
からも元氣
に、長く通
ってきたい
ね。

（北海道・小樽老健はまなす
済生記者 伝法俊和）

★元気の秘訣は何でも頑張っ
て取り
組まれると
ころ、そし
てきつと美
しいおやつ
の効果も？
（メデイカル・リリーフ 坂本陽子）



ビールが欲しい！
斗澤係長のアイデア料理
1月17日、通所の斗澤広子係長の

アイディア料理がふるまわれました。今回は「餃子の皮を使ったピザ」です。高齢の方にも食べやすい一口サイズ。ホットプレートで手軽に作れて、パリパリしていてかきやすい食感！うーん、これはビールが欲しくなる味ですね。

利用者さん、そして職員も笑顔があふれていました（お酒があつたらもつと……）。ミニサイズだったので「今度は春巻きの皮で作って〜」なんて声も上がっていました。次はどんな料理（おやつ）を作ってくれるのでしょうか？ 楽しみです。

ちなみに、筆者はチーズが嫌いなので食べることはできませんでしたが、室内はいい匂いで、おなががすね。



いたの言うまでもありません（涙）。

（北海道・小樽老健はまなす 済生記者 伝法俊和）

★料理が苦手な私でも簡単に作れるかしら？ チーズの匂いだけでお酒が進みそう……。

（本部広報課 大嶋 薫）

成人を迎え一歩大人に

筆者は今年成人を迎え、1月14日にふじの里でお祝いしていただきました。

記念品をいただいた後、松永りか所長、柳川瀬介護部長心得、東館介護課・田井文子課長と祝い膳を食べながら、普段食事を一緒に囲む機会がないので緊張しましたが……皆さんとお話しし一歩大人に近づいたような気持ちになりました！

ふじの里の職員として成人を迎えられたことを心よりうれしく思います。高校を卒業してすぐに入職し、右も左も分からない状態だった頃と比べると、約2年間で少しは成長できたかなと思っています。先輩職員

ふれる最高の集合写真が撮れました。

撮影中も会議室中に笑い声が響きわたり、チームワークの良さが伝わってきます。底抜けに明るい師長さんたちだからこそ生まれたこの一体感こそ、皆を笑顔にする師長パワー！

（埼玉・川口総合病院 済生記者 原 衣里奈）

★皆さんともいいたい笑顔！ フリースタイルでもまとまりがあつてチームワークばっちりですね。

（本部広報課 杉山菜央）

成長できるように頑張ります

1月20日に「二十歳」を祝う会が開催されました。「当院で新社会人として働き20歳を迎えた職員を祝ってあげたい」という先輩職員の声かけで、令和3年度から毎年開催されています。

今回の対象は事務部職員1人。笠原善郎院長から激励の言葉と記念品が贈られ、節目を迎えたことを喜び合うひとときとなりました。

お祝いされた職員は「まさか職場で20歳を祝ってもらえるとは思っていませんでした。20歳という節目を迎え、さらに責任を持って仕事に励みたいと思います。これからも成長できるように頑張ります！」と笑顔



で語りました。

（福井県済生会病院 総務・企画課 山村健太）

★これから何にだつてなれる。何歳になつてもそんなフレッシュさをいつまでも大切に！

（大空出版 江口仁盛）

雪像と一緒にポーズ！

当院2月の風物詩、院内保育所「なでしこキッズクラブ」前の雪像。今年「ポムポムプリン」が登場しました。

制作はおなじみ総務課施設係の神山拓也係長。スコップやコテを巧み

の皆さんがとても優しいので、毎日とても楽しく仕事ができています。これからさらに介護の知識を身に付け、精いっぱい頑張っていこうと思います！

（兵庫・特養ふじの里 東館介護課 介護士 齋藤健生）

★成人おめでとうございます！ 大人の仲間入りですね。これからの活躍も応援しています。

（本部広報課 杉山菜央）



皆を笑顔にする師長パワー！

1月下旬、各病棟の師長たちが集まる師長会議の後、3月末をもって



退職する名古屋恵子副院長（前看護部長）を囲んで記念撮影が行なわれました。

長年にわたり病院を支えてきた名古屋副院長への感謝を込め、思い出に残る一枚を撮ろうと、撮影前から「即席ポーズ会議」がスタート。「みんなのどう？」「これ映えるよね！」と師長たちの自由すぎるアイデアが次々に飛び出し、大盛り上がり！

そして迎えた撮影本番……結果、皆フリースタイル！ 決めポーズあり、ユニークな動きありで、笑顔あ

次号予告

済生 No.1150 [令和7年4月号]

- 済生会の不易流行論 (199) 炭谷 茂
- NEWSな済生人
- 済生会交差点
- この人 藤堂日向
- 口福にっぽん (91)
- てづくりおもちゃ いまいみさ

広告索引

株式会社日立システムズ
——表紙見返し[表紙2]



その一瞬の あなたの感動が、

2026年・2027年版
済生会なでしこカレンダーの写真募集



★2年に1度のチャンス!! 上期下期各1枚、2年分の計4枚
を選定し、毎年配付するカレンダーのデザインに使用します。
★入選者には済生会の障害者就労支援事業所が製作・販売している「なでしこファーム」
のお菓子セットを進呈します。

みんなの感動に。

可憐ななでしこの無垢なすがたから、
ハッとさせられる斬新な視点まで。
あなたの捉えた最高の一瞬を、ぜひお寄せください。

締め切り 令和7年7月31日(木) 必着

お問合せ・
提出先

済生会本部
広報課

koho@saiseikai.or.jp



応募用紙



募集要項

【写真の仕様】●題材はなでしこの花。自生・栽培種のいずれも可。●デジタルデータでサイズは1MB以上、正確なピントと露出補正で撮影してください。●構図は横向き。●写真に撮影日が入っているものは不可。【応募資格】●済生会職員(アルバイト含む)、職員家族、済生会で活動するボランティア。【応募方法】●メールにて「写真データ」と「応募用紙」をご提出ください。【応募方法】●応募点数は1人1点まで。●写真のデータ量が大きすぎるとメール添付で送信できない場合があります。なでしこクラウドや外部ストレージをご使用ください。●応募作品は採用結果にかかわらず、法人ホームページやパンフレット等に使う可能性があります。

済生会となでしこ

初代総裁・伏見宮員愛親王が創立当時、「撫子の歌」を済生会の事業に寄せられたのにちなみ、いつの世にもその趣旨を忘れないようにと、撫子の花に露をあしらったものが済生会の紋章になっている。